

国立国会図書館



シリーズ 被災地の図書館は今 (2)

企画展示 日本と西洋 —イメージの交差
ある好古家のコレクション 根岸武香と胄山文庫

2012.11
No. 620

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の閉室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます(ただし第一・第二資料室は満18歳以上の方)。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※第一・第二資料室は、休館日のほか日曜日に休室します。メディアふれあいコーナーと本のミュージアムは、行事等のため休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00	※1階子どものへや、世界を知るへや、3階メディアふれあいコーナー、本のミュージアムの利用時間は、開館時間と同じく9:30～17:00です。		
第一・第二資料室の利用時間	閲覧時間	火～土曜日 9:30～17:00	資料請求受付	火～土曜日 9:30～16:30
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付	火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30		

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

11 November

CONTENTS

- 02 紙に遺された映画たち 大正期連続活劇映画のノヴェライゼーション
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から
- 04 シリーズ 被災地の図書館は今（2）
- 05 一歩ずつ、前に 被災資料救済支援の現場から
- 11 陸前高田市立図書館郷土資料救済支援について
- 15 企画展示 日本と西洋 —イメージの交差
- 26 ある好古家のコレクション ねぎしたけ か かぶとやま 根岸武香と青山文庫
—「国立国会図書館デジタル化資料」搭載を契機として—

- 25 館内スコープ
外部の有識者と連携して、よりよいサービスを！
- 39 本屋にない本
○『岩手キャベツ物語 玉菜、「南部甘藍」から「いわて春みどり」まで』
- 40 NDL NEWS
○平成24年度書誌調整連絡会議

- 41 お知らせ
- 年末年始のご利用について
 - 講演会「HathiTrustの挑戦—デジタル化資料の共有における『いま』と『これから』」
 - 国際子ども図書館展示会「セント・ニコラス：世界の子どもたちが集った雑誌」
 - 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

国立国会図書館の蔵書から

紙に遺された映画たち

大正期連続活劇映画のノヴェライゼーション

藤元 直樹

「読んでから見るか、見てから読むか」というキャッチフレーズで大々的に映画と本とのコラボレーションが謳われた時代も、もはや懐かしい過去的一幕だろうか。

しかしながら、今日でも映画の原作本、あるいは映画作品を小説化しましたという本が書肆の店頭を飾っている。

記録性や見世物性を際立たせたリュミエール／メリエスの時代を経て、次第に物語性を獲得していった映画の、その最初のエポックとなったのがフランス映画「ジゴマ」(1911)である。それがもたらした熱狂については永嶺重敏『怪盗ジゴマと活動写真の時代』(新潮社 2006)に詳しい。このブームによって、20種類を越える関連本、便乗本が登場したという。

この「ジゴマ」の系譜に連なる探偵的興味を中心に置いて逐次的に上映される「連続活劇映画」が人気を博すようになるのはジゴマ・ブームからしばらくしてからのこと。その最初の大ヒット作がアメリカ映画『名金』(1915)である。表題に「名金」とある関連書は、国立国会図書館の蔵書として残るものだけでも13点を数える。

映画は長らく消費の対象であって保存に留意すべき物ではなく、当時フィルム自体が可燃性であったことも手伝い、残存していないものは多い。ここで取り上げた映画本は、失われた映画の姿を今日に伝える貴重な資料なのである。

もっとも書籍もまた伝存が確認できるものは限られ、纏まった記録も残されていないため、その消長については現物からの推測に依らざるを得ない部分が多い。ジゴマ・ブームでは様々な出版社が映画のノヴェライズ本の刊行に乗り出していたのだが、大正7(1918)年以降、活動倶楽

部社を例外として、春江堂書店が独占的に出版を手がけているように見受けられる。これは映画配給業者との間で、なんらかのルールが整備されたためだろうか。

その後、大正10(1921)年からは、大阪の榎本書店がキネマ文庫として映画のノヴェライズ本を刊行するようになったが、こちらは国立国会図書館の蔵書には見えない。

一般に、こうした映画本は絵本や実用書同様に消費されるべき本として、図書館の蔵書とされることもなく、ほどなく散逸してしまい、後年、映画研究の資料、あるいは珍品としてコレクションの対象となった時には、もはや見つけ出すことが困難となっていた。なかでも名のみが知られ、長年、探求の対象となっていたのが、荒畑寒村が竹内断腸花の名義で手がけた「名金」のノヴェライズ本である。

「最近、ほくの友人たちがよせばいいのに、ほくの著作集を出す計画を立て、その中へぜひこの『名金』を加えたいと探していますが、ほくにとっては幸いにも、いまだに見つかりません。」(「寒村茶話 未発見の小説『名金』」『朝日ジャーナル』1976年3月19日号)

この荒畑著作を含んだ一群の資料が、大正期乙部本^注と呼ばれる、帝国図書館が閲覧に供さず後代に託したコレクションである。20世紀の末になってようやく再整理され、世に出たそれは、失われた時代を伝えるタイムカプセルとも目されよう。大正から100年を経た今年とうとう映画用フィルムの生産中止のニュースが飛び込んできた。後世へ「もの」を伝えるために何をなすべきか、残された「物」から、しばし往時に思いをはせてみたい。

(ふじもと なおき 電子情報部システム基盤課)



写真1 春江堂書店の映画ノヴェライズ本から。現物には表記されていないが巻末広告より「大活劇文庫」と銘打たれたシリーズであることが知れる。



写真2 「ジゴマ」鈴木素好翻案 トモエ屋書店、梁江堂書店 大正元年 9×13cm.
「Zigomar」(1911年日本公開) 社会問題となるほどの一大ブームを巻き起こした探偵映画。これにより映画取締りが本格的に制度化された。

写真4 「名金」竹内断腸花著 活動文芸社 大正5年 19cm.
「[The Broken Coin]」(1915年日本公開) 荒畑寒村は、新潮社の前身の新声社の大黒柱といわれた中根駒十郎に別社名で出版するきわもの小説として執筆依頼されたという。「こりゃ赤本どころか、立派な芸術作品だ」とおだてられていい気になったものの、大量に出た類似本の中に埋もれて、大儲けの目論見は見事に外れたとも。



注 乙部本については、本誌600(2011年3月)号 pp.20-29 鈴木宏宗「国立国会図書館の和図書」参照。

写真3 「鉄の爪」桜木路紅訳 春江堂書店 大正6年 15cm.

「The Iron Claw」(1917年日本公開) 同書の翻訳者の正体は長らく不明であったが、「東京時代は上野桜木町にあつたから「桜木路紅」の名を使つてゐました。」(『探偵趣味』1925年11月号)と記した文章から桜木路紅=春日野緑(本名、星野龍猪 1892~1972)であることが判明した。なお桜木路紅名義の『潜航艇の秘密』は『海底の秘密』として改題再刊された時に桜木路紅名義に改められていることから、同じく星野の筆名だったと見て良いようだ。



写真5 「潜航艇の秘密」絶海の軍事大活劇 イー・アレキサンダー・ポーウェル著 田口桜村、村岡青磁訳 三芳屋 大正6年 19cm.

「The Secret of the Submarine」(1917年日本公開) 阿野二夢=アノニムなどという作者名までが使用されており、映画ノヴェライズ本を手がけたほとんどの作者の経歴は不明である。そんな中で、珍しく松竹キネマ撮影所長という肩書きを持つのが田口桜村(本名、憲三 1889~1965)。弟に記録映画で名を残す田口修治、ヴァイオリニスト黒柳守綱(黒柳徹子の父)がいる。共訳者については不明だが、本書は刊行に先立って『東京毎日新聞』に連載されており、その際には桜楓散人の名が使用されていた。



シリーズ 被災地の図書館は今 (2)



陸前高田市立図書館正面（平成23年4月12日撮影）

東日本大震災から1年半以上が過ぎました。

しかし、復興への道のりはいまだ遠く、その途上で、図書館に何ができるのか、図書館の存在意義は何かを問い続けながら、今もなお、多くの関係者が被災地支援の取組を懸命に続けておられます。

このシリーズでは、国立国会図書館の被災復興支援に関わる活動を紹介しながら、あわせて被災現地の図書館の現状をお知らせし、これからの図書館被災復旧、復興支援の方向性を考えていきます。

今回は、当館の岩手県陸前高田市立図書館所蔵の郷土資料の救済支援の取組をご紹介しますとともに、あわせて岩手県内の図書館の現状と、被災資料救済支援の活動の中から見えてきた課題について、中心となって支援活動を進めてこられた現地図書館員の方からご報告いただきます。

一歩ずつ、前に 被災資料救済支援の現場から

岡橋 明子

■ はじめに ■

平成23年3月に発生した東日本大震災以降、国立国会図書館は被災図書館の資料救済や破損資料の補修研修実施等の支援に取り組んできました（本誌615/616（2012年6/7月）号参照）。本稿では筆者が関わった岩手県陸前高田市立図書館所蔵郷土資料の救済支援活動について、資料保存業務に従事する立場からご紹介します。

陸前高田市立図書館の被災郷土資料救済支援活

動は、津波によって全壊した図書館のブックモビルの車庫に残された資料の中から、地元団体等の発行する記念誌、市史編纂関連資料、災害や民俗の記録、児童・生徒の文集等の郷土資料を探し出し、図書館資料として再び利用できる状態にするための手立てを講じる活動です。陸前高田市教育委員会の要請を受け、岩手県立図書館が段階的に作業を実施しているものですが（11～14ページ記事参照）、被災図書館の資料救済支援の一環として、国立国会図書館もこの活動に参加しています。

平成24年6月3日から5日にかけて岩手県立博物館で行われた活動では、筆者が岩手県立図書館からの依頼を受け、被災現場から救出した資料の応急処置等について、作業手順に関する助言や技術指導を行いました。

1 ■ 応急処置作業の概要

平成24年3月に、ブックモビルの車庫に山積みになっていた廃棄予定の被災資料の中から500点余りの郷土資料が探し出されました。それらは陸前高田市内の廃校となっていた高校の校舎に移送され、そこで一時保管されていました。平成24年6月の活動は、この郷土資料の中から購入や寄贈によって再び入手することが難しいものを取捨選択するところから始まりました。絞り込まれた図書や図面約260点と写真約30点の中から、状



応急処置対象資料の選別（平成24年6月4日）



岩手県立博物館屋外駐車場での作業風景（平成24年6月4日）

態が著しく悪いものや県内の他の図書館で所蔵が確認できた資料等をさらに除外し、最終的に選び抜かれた図書約170冊、写真約30点について乾燥・殺菌・汚れ落とし等の応急処置を行いました。

応急処置の済んだ資料には整理番号やタイトルを書いた短冊をはさみ、損傷の度合いによって3段階に分けました。応急処置以降の資料救済活動を開始するまでの間は、岩手県立博物館の冷凍庫で保管されることになりました。また、状態が著しく悪く、手当が極めて困難と判断され、処置対象から除外した約60冊の図書については、廃棄せずに国立国会図書館と日本図書館協会資料保存委員会において被災資料の救済方法の研究に役立つことにしました。

2 ■ 参加組織・団体

陸前高田市立図書館所蔵郷土資料の救済支援活動には様々な組織・団体が参加しています。作業の進め方や分担等は岩手県立図書館を中心とし、関係者間で密に連絡を取り合って決定していきました。

6月の活動の場合は、まず、岩手県立図書館が救出資料の書誌情報のリストを作成し、代替物入手できる可能性のある資料の調査を行いました。その間に国立国会図書館は、応急処置作業を複数団体の作業で共有するための作業マニュアルや作業に必要な資材リストを作成し、日本図書館協会東日本大震災対策委員会（注1）は作業ボランティアの確保や資材調達を進めました。

また、作業を行うに当たっては、長く資料保存

業務に専門的に関わってきた日本図書館協会資料保存委員会委員と国立国会図書館資料保存課員（筆者）が技術指導を担当しました。実際の応急処置作業には、岩手県立図書館職員のほか、「Help-Toshokan」図書館支援隊（日本図書館協会東日本大震災対策委員、東日本大震災修理ボランティア登録者、資料保存委員およびNPO法人「共同保存図書館・多摩」）、富士大学、盛岡大学および岩手大学の教職員と学生、岩手県立博物館職員を合わせ、3日間で延べ50名程が参加しました。



3 ■ 作業場所確保の問題

計画の際、関係者の頭を悩ませたのが、応急処置作業の拠点をどこに置くかという問題でした。救出した資料の中には、被災から1年以上たっているにも関わらず、まだ湿り気を帯びたものや、カビが発生しているものが数多くありました。梅雨が始まるまでの限られた時間で湿った資料を乾燥させ、消毒用エタノールを使って殺菌し、最低限の汚れ落としを終えるには、まとまった人数が短期間に集中して作業に取り組む必要がありました。

しかし、3月の作業後に郷土資料を一時保管していた旧校舎は利用可能な交通手段が限られる地域にあり、電気も水道も使用できない状況であったため、この校舎で作業するのは効率的ではありませんでした。

盛岡市内に資料を移送することができれば、作業者が作業場所に行くための交通や宿泊の便は良くなり、そのため作業に従事する人を確保しやすくなります。電気や水道を使うこともでき、効率的です。一方、市街地で大量の泥・カビ汚れを払う作業を行うには、汚れやカビの周囲への拡散を防ぎ、影響を及ぼさないように配慮する必要があります。そのため、慎重に作業場所選びを行わなければなりませんでしたが、なかなか容易には見つかりませんでした。

そのような条件下では、盛岡市内にありながら、中心街から少し離れた地域に位置する岩手県立博物館は理想的な作業場所であり、同館から賛同を得て、屋外の駐車場の一画を借りて作業することでこれらの問題が解決できたのは、とてもありがたいこ

とでした。屋外作業となるため、同館からは雨天に備えて屋根のついた車庫の利用についても配慮していただいていたのですが、作業日はすべて好天に恵まれたことも幸運でした。

4 ■ 作業者の装備

作業者には被災文化財等レスキュー委員会から発表された注意情報「被災文化財における人体への健康被害の可能性のあるカビの取扱い、および予防に関する注意点」(注2)を事前に配付して注意喚起を行うとともに、以下の装備を用意しました。

- A 不織布素材の帽子
- B 防塵マスク
- C 使い捨てタイプの薄手ビニール製手袋と綿素材の薄手手袋
- D 不織布素材の作業服

手袋とマスクは、作業者がカビによる健康被害から自らの身を守るためのもので、作業着と帽子は、すぐには洗いきれない衣服や髪にカビ等が付着するのを防ぎ、付着物を作業場所以外、特に岩手県立博物館内に持ち込まないためのものです。作業に当たっては、

- ①休憩時には装備は全てはずし、作業場所以外に持ち出さない
 - ②手袋や帽子を外す時は、付着したカビが飛び散らないように使った面を内側にする
 - ③外した手袋・マスクはゴミ袋に密閉して処分する
- ように留意しました。また、足元についても、作



カビによる健康被害等を防ぐための作業時装備の一例

業中は靴カバー (E) を履き、移動する際にカバーを取るか、除菌効果のあるウエットティッシュや出入り口にあるマットで靴底についた汚れを落とすかしてから岩手県立博物館の建物に入るようにしました。

5 ■ 応急処置後の救済活動

3日間にわたる応急処置作業の内容については、複数の参加者からすでに報告が出ています (注3)。注意と根気を要する作業の連続でしたが、参加者全員の尽力により、ほぼ予定どおり資料の応急処置を終えることができました。また、作業の合間に持たれた打ち合わせで、媒体変換など次の救済

応急処置作業の様子



湿り気のある資料を乾燥させる。ペーパータオル等の吸水紙を資料の所々に挟み、吸水紙を取り換えながら水分をとる。立たせることのできるものはページを開いた状態で並べる。



資料に付着した汚れを除去する。資料を傷めないように注意して、固着した泥のかたまりを固いブラシやヘラでこそげ落とし、刷毛で払う。



極細繊維素材のクロスやスポンジで表面に残った細かな汚れをふき取る。カビの痕跡が見られる資料には、消毒用エタノールを噴霧する。

活動に向けた道筋を付けることもできました。

応急処置が済んだ図書や図面などは、「富士大学・盛岡大学震災復興支援ライブラリーネット」(注4)の協力のもとデジタル化が進められ、写真は「陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト」(注5)によって安定化処理とデジタル化が行われています。図書や図面については、デジタル化が完了した後、残された現物に対してどこまでの手当てを行うか検討を重ねる必要があり、すべての活動が終了するまでにはまだ長い道のりが続きます。それでも、段階を踏むごとに確実により良い状態を取り戻していく資料そのものが、次の一歩を進める関係者すべての足取りを軽くしてくれる

のではないのでしょうか。

■ おわりに ■

他の被災復興と同様に、資料救済には長期的視野に立った継続的な支援が不可欠です。資料保存担当部署を持つ国立国会図書館では、引き続き被災資料の救済支援に取り組んでいきたいと考えています。

(おかはし あきこ 収集書誌部資料保存課)

(注1) <http://www.jla.or.jp/earthquake/index.html>

(注2) 被災文化財等レスキュー委員会、東京文化財研究所 情報分析班
(<http://www.tobunken.go.jp/japanese/rescue/20120319.pdf>)

注意情報によると、カビには感染性の強いものが存在し、肺疾患やアレルギーの原因になり得るため、カビが発生している資料を扱う際には健康な成人が十分な装備を整えた上で、慎重に作業を行う必要があるそうです。

(注3) 横山道子「陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動(第2期)」日本図書館協会 被災地支援レポート4
(<http://www.jla.or.jp/earthquake/tabid/430/Default.aspx>)

「陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動(第二期)も無事終了」ほか『多摩デポ通信』第23号(2012年7月)
NPO法人共同保存図書館・多摩 pp.5-8
(<http://www.tamadepo.org/tuusin.html>)

宮原みゆき「陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動(第二期)報告」『ネットワーク資料保存』第101号(2012年7月)
日本図書館協会資料保存委員会 pp.1-4

国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>資料の保存>陸前高田市立図書館所蔵の郷土資料復旧支援
(http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/data_preserve_rikuzen.html)

(注4) <http://www.morioka-u.ac.jp/library/project.html>

(注5) <http://tsunami-311.org/>

陸前高田市立図書館郷土資料 救済支援について

岩手県立図書館 澤口 祐子



写真1 陸前高田市立図書館1階（平成23年4月12日）

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震津波により、陸前高田市立図書館は、建物に壊滅的な被害を受け、職員全員が犠牲となるという甚大な被害を受けた。また、同市は市役所等中枢機関も破壊され、市職員の多くが犠牲になっ

たことから、当初は行政機能も大きな打撃を受けていたが、県内外の自治体等の支援を受けながら、被災者の生活基盤の確保や行政機能の回復に懸命に取り組んでいた。岩手県立図書館としても、被災者の衣食住の確保が第一であろうと、しばらく



写真2 第一期 郷土資料の探索 (平成24年3月17日)



写真3 第一期 発見した郷土資料の仕分け (平成24年3月18日)

は同館の復旧・復興について静観することとし、同館が保管していた岩手県指定文化財「吉田家文書」(注1)の解読に係る支援、郷土資料の収集支援等に取り組んでいた。

同年12月、同館を訪れたNPO法人共同保存図書館・多摩の会員がブックモビルの車庫に積み重ねられている図書の中に複数の郷土資料を発見し、日本図書館協会の東日本大震災対策委員会を通じて情報提供と資料救済に関する協力の申し出があった。地元の利用者からも同様の情報提供があり、ぜひ救済してほしいとの切実な声が寄せられた。被災後1年が経過していることから、資料救済の道のりが困難であることは想像に難くなかったが、その地域の文化や生活の貴重な記録である郷土資料を何とかして残さなければならない。検討の末、岩手県立図書館の支援の方針を決定し、陸前高田市教育委員会に打診して、同教育委員会の救済要請に応える形で、支援活動がス

タートした。

とはいえ、岩手県立図書館だけでできる作業ではなく、国立国会図書館と日本図書館協会東日本大震災対策委員会に協力を依頼し、作業の第一期はブックモビルの車庫に残されている資料から郷土資料を搜索、第二期は救済した資料の応急処置、その後は応急処置した資料の修復等を目指すことにした。

第一期は本年3月17日から19日まで、陸前高田市立図書館で、第二期は6月3日から5日まで、岩手県立博物館敷地内で作業を実施した。国立国会図書館、日本図書館協会資料保存委員会から資料保存の専門知識のある指導者の派遣があり、富士大学・盛岡大学・岩手大学の教職員と学生、日本図書館協会東日本大震災対策委員会委員、日本図書館協会で資料補修研修を受けたボランティア等で構成されたHelp-Toshokan 図書館支援隊、そして岩手県立図書館職員が作業にあたった。暑さ



写真4 第二期 応急処置の指導 (平成24年6月3日)



写真5 第二期 被災郷土資料のクリーニング等 (平成24年6月3日)

とカビと汚泥との戦いで作業は困難を極めたが、子どもたちから親に宛てた手紙をまとめた出稼ぎ文集や市内各団体の記念誌等、陸前高田の歴史を刻む郷土資料を救うため、参加者は皆、黙々と作業をすすめてくださった。

その後、図書等の紙媒体については「富士大学・盛岡大学震災復興支援ライブラリーネット」の協力によりデジタル化が終了している。写真類については横浜で活動している陸前高田被災資料デジタル化プロジェクト(注2)が安定化処理とデジタル化等について快諾してくださり、先日写真類を送付することができた。

今回の被災により、図書館の本質が改めて問われることになった。それは、まず、後世に伝えていくべき資料を確実に伝えていくことである。岩手県内では図書館の蔵書約20万冊が流失したが、特に郷土資料は一度失われてしまうと入手が難しいことを痛感した。日頃から収集可能な時期に確

実に収集していくことが重要であり、複数館での保存や媒体変換した形での保存についても今後検討していかなければならない。

また、館種を超えた図書館間の協力体制や関係団体との連携の必要性も強く感じている。今回の救済は、被災地の教育委員会をはじめ、県内の大



写真6 被災した写真 (平成24年6月4日)



写真7 第一期 発見された被災郷土資料（平成24年3月17日）



写真8 第二期 応急処置後の被災郷土資料（平成24年6月4日）

学図書館、県立博物館、国立国会図書館、日本図書館協会などの協力があって初めて実現した。日頃から信頼関係を築いておくこと、その信頼関係に裏打ちされた協力体制を強化していくことが大切である。

現在県内のほとんどの図書館は、全国からの温

かいご支援により完全に復旧しているが、甚大な被害を受けた図書館の復興への道のは、まだ先が長い。長期的な視野に立った継続的支援が今後必要であり、県立図書館はその調整役として、ひとつひとつに丁寧に対応していかなければならない。長い道にはなるが、皆様には今までと同様に、被災地のことを忘れず、いつまでも見守っていただくことを願ってやまない。

（さわぐち ゆうこ）



写真9 「東北復興のためのイタリア人会」から寄贈されたブックモービル「はまゆり号」（平成24年7月5日）

（注1）江戸時代から明治にかけて仙台藩のおおきもり大肝入を世襲していた吉田家に伝わる古文書類。執務記録である「定留」のほか、「伊達正宗黒印状」、「気仙郡村絵図」などを含む。平成7年に岩手県指定有形文化財となり、陸前高田市立図書館に寄託されていた。

（注2）活動の詳細はホームページを参照。

http://tsunami-311.org/?page_id=9

西洋人が描いた日本人→



日本はさかさの国!?

企画展示

日本と西洋 — イメージの交差

平成24年11月5日(月)~12月8日(土)

国立国会図書館では、日本に関する西洋の資料を多数収集しています。平成24年度企画展示「日本と西洋—イメージの交差」では、それらの資料を中心に、16世紀のキリスト教の伝来から20世紀初頭までの、日本と西洋の接触から生まれた様々なイメージを紹介します。

西洋人にはおかしなやつ。

←日本人が描いた西洋人
(シーボルト)





第一部

キリスト教の伝来

大航海時代、ポルトガルやスペインはアジアに進出し、貿易と布教を軸にアジアに関する諸知識を蓄積していきました。特にイエズス会は、現地における活動状況を書簡の形で報告したため、貴重な日本の情報が残されています。

『ニエッキ・ソルド・オルガンティーノのイエズス会総長宛書簡集』（写真1）は、京都で布教していたオルガンティーノ（Organtino, Gnechchi-Soldi, 1530-1609）の報告書です。オルガンティーノは親日的で、日本人に人気がありました。1577年10月15日付けの書簡では、「毎日、日本人から教えられる」「これほど天賦の才能を持つ国民はない」¹⁾と褒めています。

しかし、その後のキリシタン迫害は、日本人が残虐であるという強い印象を西洋に与えました。クラッセ（Crasset, Jean, 1618-1692）『日本教会史』はイエズス会士クラッセによる著作です。写真2は島原の乱の図で、磔、水責めなど、さながら地獄絵図といった様相を呈しています。

鎖国時代

1630年代になると、いわゆる「鎖国」政策がとられ、日本にとって西洋で唯一の貿易国となったオランダは、日本情報の出口としても機能することになりました。

『日本大王国志』（写真3）は、1636（寛永13）年にオランダ商館員カロン（Caron, François,



上 写真1
Organtino, G.S. *Copia di due lettere scritte dal P. Organtino Bresciano della Compagnia di Giesu dal Meaco de Giappone. al molto r. in Christo P. N. il P. Claudio Acqvaviva Preposito Generale.* Roma : Presso Luigi Zannetti, 1597. 16cm. <請求記号 WA41-7>
1594年9月29日付けと1595年2月14日付けの2通を収録。「関白殿」（豊臣秀吉）の統治政策などをローマの総長に伝える。

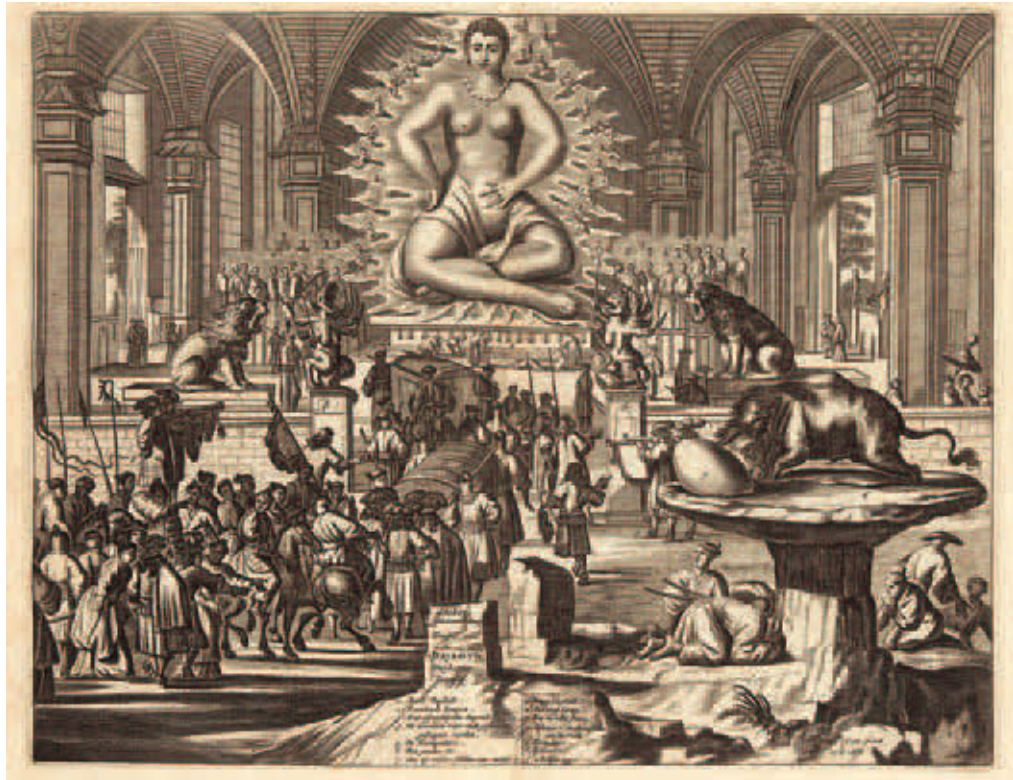


右 写真2
Crasset, J. *Histoire de l'église du Japon.* Paris : E. Michallet, 1689. 2v. 26cm. <請求記号 WA41-29>



上 写真3
Caron, F. *Beschrijvinge van het machtigh Koninckrijcke Japan*. Amsterdam : J. Hartgers, 1649. 19cm.
<請求記号 貴-6426>

右 写真4
Montanus, A. *Atlas jappannensis*. London : T. Johnson, 1670. 43cm. <請求記号 WA41-1>



1600-1673) がバタビア商務総監の質問に答える形で日本事情について執筆したものです。徳川家光の衆道、切腹の様子のほか、天皇は爪も髪も伸び放題であるなど、センセーショナルな話題が多く、不思議の国「日本」のイメージに大きな影響を与えました。

その後、日本に滞在したオランダ人、オランダに雇われたヨーロッパ人による客観的な日本研究が進展し、蘭学者との交流も行われました。しかし、西洋ではその後も想像で描かれた書物が出版されました。

モンタヌス (Montanus, Arnoldus, 1625?-1683) の『日本誌』は、カルヴァン派の牧師モンタヌスが、過去のオランダ使節や宣教師の報告・日記などの情報を基にして日本事情についてまとめたものです。彼自身は来日したことがなく、伝聞によって

いるため、全般に想像や誤解に基づいて記述され、珍妙な図像が多く見られます。1669年アムステルダムで初版が刊行されると、大変な人気となり、同時に独訳、翌年に仏訳、英訳 (展示本) がそれぞれ刊行され、『ガリバー旅行記』の日本の記述もこれを参考にして執筆されました。写真4は奇天烈な大仏の図です。ほかにも、人魚のような形をした観音像など、不思議な図像が数多く掲載されています。

日本という不思議の国を舞台にした小説も書かれました。フロマジェ (Fromaget, Nicolas, 生年不詳-1759) 『日本の皇后、ミリマ』<請求記号 WF1-14>、シェヴリエ (Chevrier, M. de François Antoine, 1721-1762) 『マ=ガクウ、日本の物語』<請求記号 WF1-13>、マルモン (Marmont du Hautchamp, Barthélemy, 1682頃



写真5 Marmont du Hautchamp, B. *Mizirida : principessa di Firando*. Milano : SEA, 1950. 24cm. <請求記号 KR164-B22 >

-1760頃)『平戸の王女、ミジリダ』(写真5) などは、『日本の皇后、ミリマ』のヒロイン「ミリマ」は、公方様 (Cubosama) の妻で、絶世の美女として描かれています。若い僧オメンドノを愛していますが、公方の重臣三好殿 (Mioxindono) に横恋慕されてしまい、最後には、ミリマが仏間で割腹自殺するという粗筋です。こういった想像上の外国を題にとった小説は、遠い国を舞台にする
と見せかけて、実は、「一種の社会批判の書」であると言われてます²⁾。

文字をデザインとして使う

外国人が着ているTシャツに、不思議な日本語がプリントされていて思わず微笑んでしまうことがあります。こうしたことは現代だけに限りません。鎖国時代にオランダ商館員としてやってきたフィッセル (Overmeer Fisscher, J.F. van, 1800-1848) の著書『日本風俗備考』(写真6) では、漢字が文様としてデザインされています。また、日本でもオランダ経由で入ってきたアルファベットを、新奇的なデザインとして取り入れていました (写真7)。

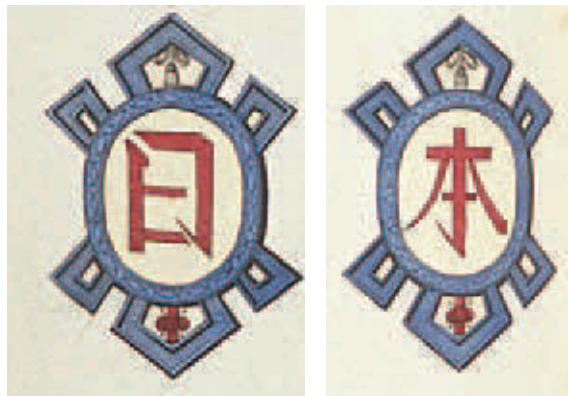


写真6 Overmeer Fisscher, J.F. *Bijdrage tot de kennis van het Japansche rijk*. Amsterdam J. Müller, 1833. 29cm. <請求記号 蘭-661 >

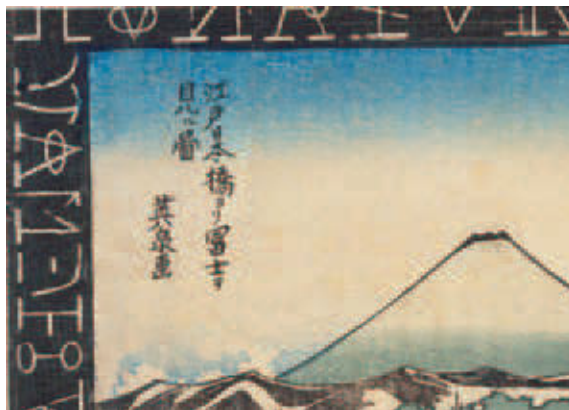


写真7 「江戸日本橋ヨリ富士ヲ見ル図」(『英泉江戸名所』所収) [溪斎] 英泉画 [江戸] [江崎屋吉兵衛] 大判錦絵 31.6 × 46.5cm. <請求記号 寄別2-9-1-10 > (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1305155/1>)



写真8 『万国総図』 京都 林次左衛門 1671 (寛文11) 刊 39.5 × 55.3cm.
 <請求記号 WA46-2 > (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1286179/1>)

日本では

さて、日本では西洋のことをどのように認識していたのでしょうか。写真8は、1645 (正保2) 年に我が国で最初に刊行された世界地図『万国総図』を簡略化したもので、横には民族ごとに男女の服装が描かれています。実在の国名のほかに、「長人」「小人」「人食い国」という記述も見られます。

『絵本異国一覽』は世界の国々を解説する絵本です。アメリカやヨーロッパといった実在の国が登場する一方、空想上の国も含まれています。写真9は北アメリカにあるという「戸頭蠻^{しとうばん}」(第4巻)の図です。深夜に首がのびて、汚いものを食い荒して体に戻るのだと書かれています。

当時は、日本人の海外渡航は厳しく禁じられて

いたため、西洋人が日本を想像するのと同様に、多くの日本人にとっても外国というのは、こうした想像力をかきたてるものだったのでしょ

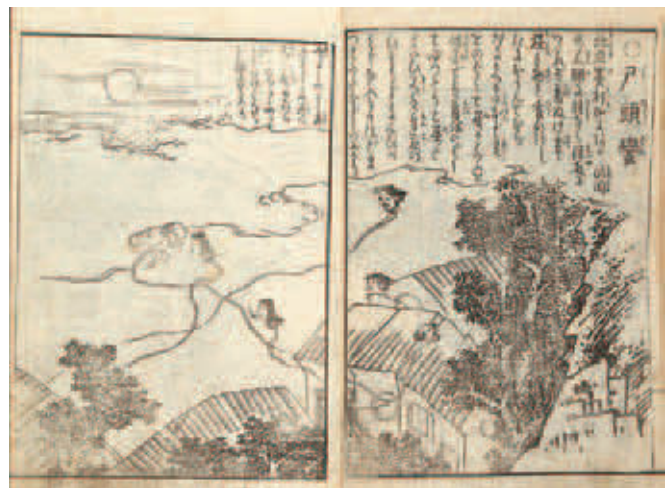


写真9 『絵本異国一覽』 春光園花丸著 岡田玉山画 浪花 松本平四郎[ほか] 1799 (寛政11) 刊 全5巻 23cm. <請求記号 127-255 >



第二部

開国、西洋ジャーナリズムに あらわれた日本



写真10
『パンチ』(1858.12.18)
Punch, vol.35. London :
Punch Publications, 1858.
<請求記号 Z52-B57 >

日本が開国した頃、西洋では絵入り新聞が社会の様子を伝えるメディアでした。写真10は、『パンチ』に初めて日本人の姿が登場した号です。「ユートピアに10週間で到着!」「本誌次号は長崎で印刷か」等のセンセーショナルな文言と共に、西洋女性が流行に乗り遅れないように眉を剃り落とし、歯を黒くしたというジョークまで紹介されています。

写真11は、1860(万延元)年、日米修好通商条約の批准のために、外国奉行新見豊前守正興を中心とする使節団がアメリカに派遣された際の様子を特集した絵入り新聞の写真です。日本人は小さく、顔が黒く描かれています。

日本に来た西洋人

開国した日本には、宣教師、外交官、お雇い外国人、ジャーナリスト、文学者、旅行家など多様

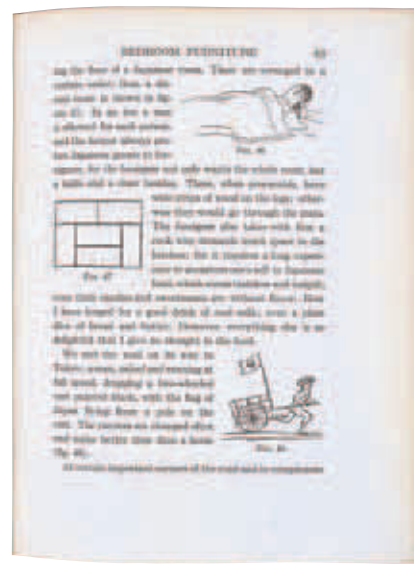
な立場の人々が訪れ、数多くの見聞記を著しました。

大森貝塚の発掘調査で有名なアメリカ人動物学者モース(Morse, Edward Sylvester, 1838-1925)は、『日本その日その日』(写真12)に、日本で日々観察したことを、自筆スケッチと共に記しています。「ある点で日本人は、あたかもわが国の子どもが子どもじみているように、子どもらしい」「人力車で町々を通ったり、何度も何度も大学へ往復するのは、常に新奇で、そして愉快的な経験である³⁾」と日本での楽しい思い出を披露しています。

フランス人画家ビゴー(Bigot, Georges Ferdinand, 1860-1927)は、日本美術の研究のため、1882(明治15)年1月に来日しました⁴⁾。画学教師、絵入り新聞⁵⁾の通信員を務めるなどしながら、銅版画集⁶⁾や風刺雑誌を刊行しました。日本の風景を、辛辣かつ愛情ある描写で切り取っています。『1897年の日本のニュース』の表紙には、ふんどし一丁⁷⁾で西洋人と対する日本人が描かれています(写真13)。ビゴーは、写真14も有名で

左 写真11
『フランクスリーズ・イラストレイテッド・ニューズペーパー』(1860.6.2)
Frank Leslie's illustrated newspaper, vol.10.
New York : Frank Leslie, 1860.
<請求記号 Z92-435 >

右 写真12
Morse, E.S.
Japan day by day.
Boston ; New York : Houghton Mifflin, 1917. 2v. 23cm.
<請求記号 915.2-M884j >





左 写真13
Bigot, G. *Faits divers illustrés ou le Japon en 1897*. [Tokyo]: [G. Bigot], [1897]
23×31cm.
<請求記号 W992-B1 >
(<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1900659/1> 館内限定公開)

右 写真14
TÔBAË (1887 (明治20). 5.1) (芳賀徹 [ほか] 編『ビゴ—素描コレクション. 2 (明治の世相)』岩波書店 1989 28cm.)
<請求記号 KC16-E509 >

はないでしょうか。鹿鳴館に向かう紳士淑女の鏡に映る姿を猿として描くことで、洋装が板についでいない様子を風刺しています。

ジャポニスム

明治以降、万国博覧会等を通じて、日本の美術が西洋に知られ、多くの芸術家たちに影響を与え、それがジャポニスムとして結実したのは有名なところ。具体的に真似したものもたくさんあり

ます。リヴィエール (Rivière, Henri, 1864-1951) の『エッフェル塔三十六景』(写真15)は葛飾北斎 (1760-1849) の『富嶽三十六景』を模倣してパリの風景を描いた版画集です。

ビルオー (Bilhaud, Paul, 1854-1933) の『小さな日本人』(写真16)は、和紙に刷られた美しい絵本です。「小さな」というのが当時の日本人のイメージだったのででしょうか。

日本を舞台にした不思議な小説は、ジャポニス



左 写真15
Rivière, H. *Les trente-six vues de la Tour Eiffel*. Paris : Eugène Verneau, 1902. 24×30cm. <請求記号 KC314-B21 >

右 写真16
Bilhaud, P. *Les petits japonais : la soirée de fleur de thé, dessins japonais*. Paris : J. Lévy, 出版年不明 25cm.
<請求記号 Y17-B13371 >



写真17



写真18



写真19



ムの時代にも多数出版されています。

リシャール (Richard, Charles, 生没年不詳) 『鯉の牧人／プリンセスワタナベ』(写真17) は、表紙に富士山と扇がデザインされ、中の挿絵もカラーで美しい小さな本です。二つの短編を収録しており、そのうちの「プリンセスワタナベ」は「ナガサキ」を舞台として展開します。魔法使いから「娘を授かるが、太陽に奪われる」と予言された王が、友人「サムライ」の忠告により、「キョート」の戦人に命じて三重塔を作り、王女「ワタナベ」を閉じ込め、王女は太陽を見ずに成長するという、ファンタジックな物語です。

エルヴィリ (Hervilly, Ernest d', 1839-1911) 『麗しのサイナラ嬢 日本的夢幻劇』(写真18) は戯曲です。主人公「カミ」(Kami) は、「サイナラ」(Sainara) 嬢を愛していますが、突然やってきた「ムスメ」(Musumé) に誘惑され、「ムスメ」を鼻根にしている「タイフーン」(Tai-Phoon) の怒

写真17 Richard, C. *Le pasteur de carpes ; La princesse Vatanabé*. Paris : C. Marpon et E. Flammarion, 1885. 15cm. <請求記号 KR169-B8>

写真18 Hervilly, E. *La belle Sainara, comédie japonaise en un acte en vers*. Paris : A. Lemerre, 1876. 20cm. <請求記号 168-174>

写真19 『イリュストラシオン』no.1818 (1877.12.29) *L'illustration*. Paris : [Dubochet], 1877. 38cm. <請求記号 Z55-D65>

北斎大人気

シーボルト (Siebold, Philipp Franz Balthasar von, 1796-1866) の『日本』(写真20) には『北斎漫画』(写真21) からの流用があります。フィッセルの『日本風俗備考』(p.18 写真6) にも『北斎漫画』からの流用が見られます。北斎の生き生きとしたスケッチと、大胆な構図が、新鮮に映ったのでしょうか。

写真20

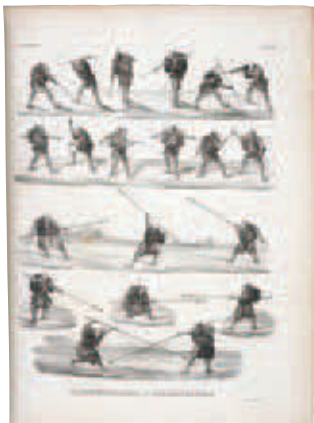


写真21

写真20 Siebold, P.F.B. *Nippon*. Leyden : bei dem Verfassers, 1832-[1851] 3v. 40cm. <請求記号 特4-26> 図は第2巻「武術の稽古」。

右 写真21 『北斎漫画』6編 葛飾北斎画 名古屋 片野東四郎, 1878 (明11) 刊 25cm. <請求記号 109-120> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/851651>)

りを買うことになり、最後には切腹を覚悟する羽目に陥る、というストーリーです。写真19はこの上演の様子です。

黄禍と戦争

列強による植民地争奪戦が激化した19世紀末から20世紀前半にかけて、国力の増大や移民の増加を快く思わない西洋社会において、日本人や中国人の黄色人種に対する怖れが拡大し、「黄禍論」を生み出しました。特に、日露戦争における日本の勝利は、西洋に対する東洋の勝利と受け取

繰り返されるイメージ

宣教師の時代から現代に至るまで、西洋の人々から見た日本人の性質について、一貫して言われていることが多数あります。善良である、無邪気である、名誉を重んじる、礼儀正しい、賢い、本音を言わない、感情を表に出さない、などなど…。

例えば、そのような日本人の特徴と言われる一つに、儀礼好きでお辞儀が下げさ、というものがあり、複数の図書で日本人が深々とお辞儀する図像が紹介されています。現代の日本でも、礼儀作法の本には場合に応じたお辞儀の角度が掲載されているように、この習慣も長く継承されていますが、西洋人から見たらやはり奇異なのでしょうか。



写真24



写真22



写真23

写真22 モンタヌス『日本誌』(p.17 写真4) から、「蘭使の挨拶」

写真23 ブルトン『日本』 Breton de La Martinière, Jean Baptiste Joseph. *Le Japon*. Paris : A. Nepveu, 1818. 4v. 15cm. <請求記号 GB341-10>

写真24 オールコック『大君の都』 Alcock, Rutherford, 1809-1897. *The capital of the Tycoon*. London : Longman, Green, Longman, Roberts & Green, 1863. 2v. 22cm. <請求記号 A-72>



られ、日本人は、小さくて黄色い、姑息な猿として描かれることが多くなります。写真25は、猿(日本)が、熊(ロシア)の毛皮の上に座り、世界地図を手にしながら次の侵略計画を練っている様子を描いた挿絵です。褒め言葉のはずだった「小さくてかわいらしい」「賢い」といった好意的なイメージが、「小さくてずる賢い」といったマイナスのイメージに転じてしまっています。

第二次世界大戦では、猿が進軍する様子が多数描かれ、反日感情が煽られました。見知らぬ相手に対する怖れや憧れから生まれたイメージが、場合によっては戦争を煽ることにもなるのです。

(展示委員会企画展示小委員会)



写真25 *Review of reviews. vol.31* (1905.6) London : *Review of Reviews.*
〈請求記号 Z55-A429〉

参考文献等

- 1) 松田毅一「解題Ⅱ」(ヴァリニャーノ著、松田毅一[ほか]訳『日本巡察記』平凡社 1973)〈請求記号 HP1223-35〉
- 2) 山内昶著『青い目に映った日本人 戦国・江戸期の日仏文化情報史』人文書院 1998 〈請求記号 GB327-G5〉
- 3) E.S.モース著、石川欣一訳『日本その日その日』第1巻 平凡社 1970 〈請求記号 GB648-4〉
- 4) 国史大辞典等
- 5) *Graphic* 〈請求記号 Z92-406〉など
- 6) *Album ma-ta* 〈請求記号 KC314-A11〉など
- 7) 渡辺京二著『逝きし世の面影』平凡社 2005 〈請求記号 GB63-H40〉p.308 には、「混浴・行水と並んで外国人をおどろかしたのは、日本人の裸体の習慣である。労働する男たちがふんどしひとつなのはまだしも、女たちが人前で肌を露出して羞じないのは…」とあります。

展示会情報

平成24年11月5日(月)～12月8日(土)

※日・祝・休館日(11月21日(水))を除く

10:00～19:00 (土曜日は18:00で終了)

国立国会図書館 東京本館 新館1階 展示室

入場無料

日本と西洋
イメージの交差

BANZAI

国立国会図書館へのアクセス

入口から展示室へのアクセス

国立国会図書館では、日本に関する西洋の資料を多数収蔵しています。本展示会では、それらの資料を中心に、19世紀前半の西洋の伝記作家から加藤純徳まで、日本と西洋の関わりをたどります。また、明治維新の時代、少しいくつかの場所の取り違えが、戦後には戦争を学んだ人びとが、(開国前、万国博覧会で評判になった)日本の乳白の少年の姿に驚いた。何にせよ、日本は西洋の文化を日本流にアレンジして取りこんでいった。

こうした経緯の中、西洋人が想像した日本人の姿、歴史は絶えず変化し続けているものがあります。一方、日本は「先づき」西洋文化は受け入れ、その中で独自の発展を遂げてきた。西洋でも、日本人が「先づき」西洋文化を受け入れた。西洋でも、日本人が「先づき」西洋文化を受け入れた。西洋でも、日本人が「先づき」西洋文化を受け入れた。

国立国会図書館 東京本館 新館1階 展示室
03-3508-5250(直通)
http://www.ndl.go.jp

外部の有識者と連携して、よりよいサービスを！

調査及び立法考査局は、国政審議に資するため、国会向けの立法調査サービスを担っています。昨年度から、このサービスのさらなる充実を図るため、外部有識者との連携強化に努めています。

これまでは、しばしば1回限りのテーマを決めて外部有識者との意

見交換を実施していましたが、有識者との連携、協力関係をより深められるよう、継続的なテーマの下に何度か意見交換する場を設けたり、同時に、幅広い分野にわたる専門的な意見が反映されるように講師を探して依頼したりといった工夫をしています。

また、成果を目に見える形で広く発信することにも留意しています。昨年度は、「英国の政治制度」や「農業者直接所得補償制度」といったテーマで、担当部署の職員と有識者との間で議論をし、共同で現地調査も行いました。最終的には、双方の書いた論文をまとめ、『レファレンス』の特集号として刊行しました。東日本大震災からの復旧・復興に向けた政策課題に関しても、経済学から工学まで幅広い分野の研究者を招いて意見交換し、要点の記録を作成して、調査プロジェクトの最終報告書の中に収めています。これらの刊行物は、ホームページ上でも



公開しています*。また、調査成果に基づき、国会関係者に対して、国政課題を解説するセミナーを、有識者と共同で開くこともあります。

こういった事業の事務に加え、日常的な協力関係の構築・維持を目指して、外部調査研究機関の訪問等も行っています。さらに、国会関係者だけでなく、広く国民に向けて国会情報等を発信し、交換することを目的として、図書館員等を対象とした研修や図書館総合展等での広報にも努めています。

第一線で活躍する有識者は多忙な方が多く、講師を依頼するにも日程調整をはじめ、あれこれ大変なこともあります。さらなるサービスの充実に向け努力してまいります。

(調査企画課連携協力室 ちょう)

* 国立国会図書館ホームページ>国会関連情報
<http://www.ndl.go.jp/jp/data/diet.html>

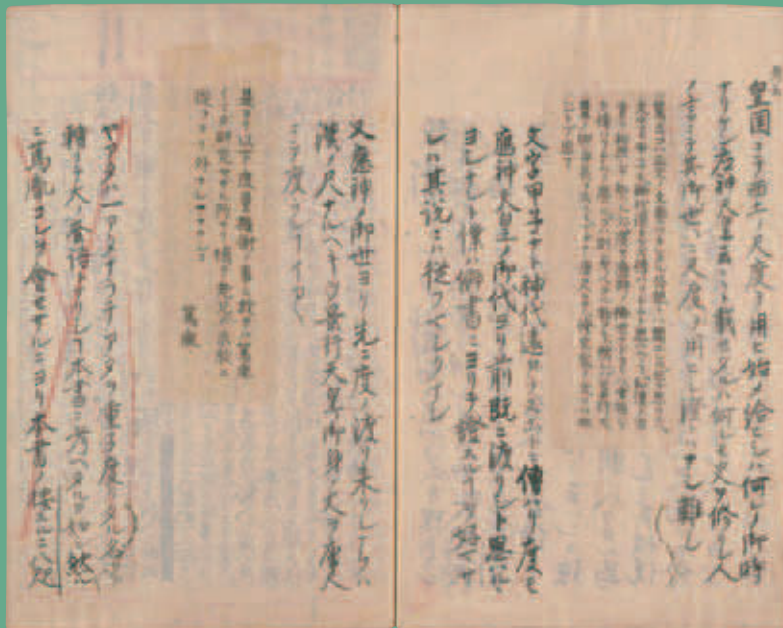
ねぎしたけか かぶとやま

ある好古家のコレクション

根岸武香と冨山文庫

—「国立国会図書館デジタル化資料」搭載を契機として—

大沼 宜規



- 左上 写真1 「本朝度考八咫鏡説平田氏批攷弁」 <請求記号 本別9-1> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541783> 7コマ目)
狩谷掖斎が自著に対する平田篤胤の批判を切り貼りし、反論を加えたもの。
- 右上 写真2 「藩札」第1冊 <請求記号 貴9-22> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2575020> 4コマ目)
- 左下 写真3 「張交帖」第1冊 <請求記号 本別9-24> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586692> 16コマ目)
- 右下 写真4 「古瓦揚帳」 <請求記号 本別9-14> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541788> 12コマ目)

はじめに

平成23年10月と平成24年4月、国立国会図書館で所蔵する古典籍資料（近代の写本などを含む。）あわせて約7万冊が「国立国会図書館デジタル化資料」を通じてインターネット公開された¹。公開された資料には、重要文化財に指定されている宗家文書²、五山版や古活字版といった貴重書・準貴重書³などのほか、旧幕府引継書、西村茂樹の稿本類、小宮山楓軒・南梁による小宮山叢書、白井光太郎や伊藤圭介旧蔵の本草関係資料（白井文庫、伊藤文庫）など、組織や個人の旧蔵コレクションが多く含まれている。

本稿で紹介する青山文庫も、個人の旧蔵コレクションだが、古文書類や名家自筆本などを除けば一般的な資料が多いように見えるためか、上述のコレクション類に較べ今まであまり注目されず、かつて当館で開催した「個人文庫展」⁴でもとりあげられなかった。しかし、個人コレクションは総体として見た時、持ち主の学問や生涯を示唆し、個々の資料の価値とは別の価値が生ずる。

一方で、従来コレクションを総体として把握するには、時間をかけて地道に図書館に通う必要があったが、近年インターネットによって閲覧できる資料が増え、ある程度自宅で調査することが可能になった。青山文庫も殆どが「国立国会図書館デジタル化資料」に掲載され、その例に漏れない。

そこで、本稿では、旧蔵者根岸武香の活動に即して青山文庫の資料を、デジタル化により作成された写真とともに紹介していきたい。

* 本稿では、青山文庫本については、本文、注およびキャプション中において書名の後に〈〉に包み、請求記号を記載する。青山文庫本以外は、（ ）に包んで記載している。

1 <http://dl.ndl.go.jp/> 「国立国会図書館デジタル化資料」に資料を随時追加し、インターネット公開している。一部の資料は館内限定公開となっている。

2 宗家文書については、本誌第559（2007年10月）号 pp.6-7 「重要文化財指定資料紹介『宗家文書』（『対馬宗家倭館関係資料』）」参照。

3 「国立国会図書館貴重書指定基準」「国立国会図書館準貴重書等指定基準」の規定に基づき、国立国会図書館の図書その他の図書館資料の中から館内の貴重書等指定委員会が指定している。

4 1982年から1984年にかけて3回開催された。国立国会図書館 編・刊『国立国会図書館所蔵個人文庫展 展示会目録』1982～1984年（請求記号 UP72-42）参照。



写真5
印影は『忍城戦記』〈請求記号 839-24〉
(<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2538681>)
左は2コマ目、上は21コマ目）に捺されたもの。ほかに「根岸」、「青山樞園珍藏」と記された印などもみられる。



写真6
肖像は『十二考古家資料写真帖』第2回（請求記号 186-279）による。同書には、武香旧蔵の鈴鏡や古文書の写真も掲載されている。

- 5 平田鋏胤 (1799-1880) 幕末・明治前期の国学者。平田篤胤の養子となり長女と結婚、その活動を支えた。維新後は、明治天皇侍講などをつとめた。
- 6 横山由清 (1826-1879) 幕末・明治前期の国学者。号月舎。伊能穎則、横山桂子門。和学講談所、制度局や東京大学などに勤務した。法典整備などにつとめた。著作に「日本田制史」など。
- 7 安藤野雁 (1815-1867) 幕末期の歌人。塙忠宝門。著作に「万葉集新考」「野雁集」。
- 8 寺門静軒 (1796-1868) 江戸後期の儒学者。駒込で克己塾を開く。著作「江戸繁昌記」により処分を受け、晩年は武蔵国妻沼で両宜塾を開く。根岸家で没した。
- 9 千葉周作 (1794-1855) 江戸後期の剣客。北辰一刀流の創始者。江戸日本橋品川町(後、神田お玉が池)に道場玄武館を開く。
- 10 根岸武香の伝記としては、根岸友憲 監修 根岸友山・武香顕彰会 編『根岸友山・武香の軌跡 幕末維新から明治へ』さきたま出版会 2006 (請求記号 GK95-H36) が詳しい。ほかに、埼玉県立文書館所蔵「履歴書」(文書番号 林家7543-3)、「会長逝矣」(『集古会誌』集古会 明治36年3月刊 7丁表-8丁表) (請求記号 雑19-54)、『東京人類学会雑誌』207 (根岸武香記念号) 東京人類学会 1903 (請求記号 Z19-11)、根岸友憲「根岸友山と根岸武香」(立正大学地域研究センター年報編集室 編・刊『立正大学地域研究センター年報』22号 (1998年) 1999 pp.2-4) (請求記号 Z41-6197)、埼玉県立文書館 編・刊『大里地方の文書友山と武香 冑山根岸家文書の世界 平成10年度第1回収蔵文書展』1998 (請求記号 Y121-M99-67) など参照。
- 11 坪井正五郎 (1863-1913) 明治期の人類学者。日本における人類学の基礎を築いた。帝国大学教授。
- 12 埼玉県比企郡吉見町の丘陵斜面にある横穴群。国指定史跡。
- 13 小中村清矩 (1821-1895) 幕末・明治期の国学者。和学講談所に勤務し、維新後は東京大学教授、「古事類苑」編集委員長などをつとめた。
- 14 小中村清矩 [ほか]『小中村清矩日記』汲古書院 2010 (請求記号 HA153-J31) p.695
- 15 宮瀧交二「大里町冑山・根岸家の「蒐古舎」について—埼玉県博物館発達史の研究—1」(埼玉県立博物館 編・刊『埼玉県立博物館紀要』(29) 2004 pp.51-58) (請求記号 Z21-792) 参照。
- 16 大野雲外、柴田常恵「図版考説」(前掲註10『東京人類学会雑誌』 pp.352-371) p.353
- 17 「根岸家所蔵古物目録」(前掲註10『東京人類学会雑誌』 pp.385-387) などによる。なお、根岸のコレクションは、『集古会誌』や『集古会記事』に掲載された展示品の目録からも知る事ができる。

根岸武香の生涯

根岸武香は、天保10 (1839) 年5月15日生、明治35 (1902) 年12月3日没。幼名新吉、通称伴七、号樞園。武蔵国大里郡甲山村 (現、埼玉県) の豪農で国学者、政治家。郷土史家、考古学者とも評価される。父友山は尊皇家で、浪士組の一員にもなった人物である。武香も国学を平田鋏胤⁵、横山由清⁶、安藤野雁⁷に、儒学を寺門静軒⁸に、剣を千葉周作⁹に学んだ。嘉永3 (1850) 年、名主職を継ぎ、安政3 (1856) 年には大里郡23ヶ村の公選で水利堤防普請総代になった。明治元 (1868) 年には大総代名主を命じられ、さらに明治12 (1879) 年に埼玉県会の副議長、翌13年に県会議長、明治27 (1894) 年に貴族院議員となった¹⁰。

コレクター根岸武香

根岸武香の学術面での活動は、明治20 (1887) 年、当時帝国大学の大学院生であった人類学者坪井正五郎¹¹による吉見百穴¹²の調査を支援し、保存にも尽力したことが有名である。その出土品は帝国大学に収められたとのことであるが、根岸も広く考古資料を収集していたようで、明治28 (1895) 年5月17日に根岸宅を訪れた国学者小中村清矩¹³は、次のように記している。

離れ家ハ古物を収る所にて、そこに入てミれば石鎚・石劔・雷斧・石人・金銀環・勾玉の類あまたを陳列し、殊に土偶人・埴馬の多くあるが、全体具足したる式つまであるハめづらし。瓮の類の多きハいふも更なり (これハ甲山又吉見の石室より出たるが多しといふ)¹⁴

小中村が「全体具足したる」と記したうちの一つは、現在、重要文化財に指定されている「短甲武人埴輪」であろう (東京国立博物館所蔵)。そのほかにも20種を越える埴輪・土偶をはじめ、刀、鏡、曲玉、銅鏃、石鏃、石斧、古瓦など様々な考古資料を所蔵し、「蒐古舎」¹⁵という陳列室を建て「人類学教室、東京帝室博物館に匹敵すと称せら」¹⁶れていた¹⁷。



写真7 入間郡越生郷津久根村村社八幡神社神跡
『骨董集』第6冊 <請求記号 本別9-13> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586680> 26コマ目 館内限定公開)。このほか、明治33年4月14日には鹿島神宮で出土した「鉄製ふるき軍配団扇二振」の模写をする(100コマ目)など、旅先でも資料の収集を怠らない様子が窺える。

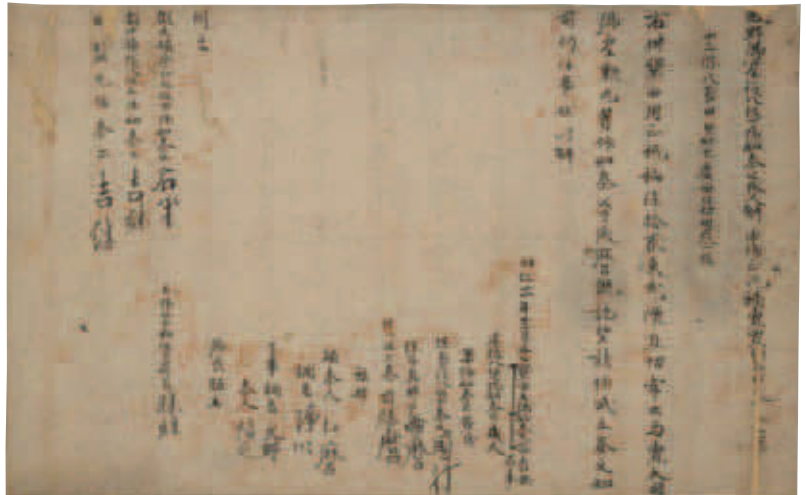


写真8 [近江国蚊野郷秦成人解]
『田券』<請求記号 WA25-40> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1288411> 6コマ目)。弘仁11(810)年12月5日の墾田の売券。同様の2通とともに1軸に仕立ててあり、模刻本が作成されている(p.31「古文書(①②)」の項参照)。古文書の名称は、註40「上野図書館紀要」p.53による。

実物だけではなく、考古資料の模写や拓本も蓄積していた。『骨董集』第6冊 <請求記号 本別9-13>¹⁸には、北武蔵を中心に約50件の情報が掲載されている【写真7】。たとえば、明治13(1880)年5月2日に埼玉県会議員が北足立郡芝村の長徳寺に集会した際には庭の石灯笼の模写と拓本を、明治28(1895)年6月2日には帝国博物館で「北埼玉郡埼玉村堀塚所獲古鈴」の模写を作成している。

また、多数の皇朝銭や戦国武将大河内正綱の印、平安時代の田券【写真8】といった古銭、古印、古文書、あるいは古升や古地図なども収集していた。豊かな財力を背景に古銭を収集する様子は『榎園泉史稿本』第5冊 <請求記号 842-36>¹⁹に綴じられた書簡や領収書から知ることができる。たとえば、友人で有力な古銭収集家であった柏木貨一郎²⁰の没後、コレクションを譲り受け、明治32(1899)年7月29日に600円、明治33年7月10日に350円を支払っている。さらに翌34年には、やはり有力な古銭収集家守田治兵衛²¹から連絡を受け、福永銀行旧蔵のコレクションを実見するために大阪に赴き、12月23日に1801円で入手している²²。小学校教員の初任給が10円前後の頃の話である²³。根岸武香は熱心な好古のコレクターであった。

18 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586680>
館内限定公開

19 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2563853>
館内限定公開

20 柏木貨一郎(1841-1898)幕末・明治期の鑑定家、収集家。号探古齋。幕府の大工棟梁をつとめ、明治維新後は文部省博物館に勤務し、博覧会開催などに従事した。

21 守田治兵衛(1841-1912)幕末・明治期の葉種商。

22 『榎園泉史稿本』第5冊 <請求記号 842-36>(URLは、前掲註19参照)のほか、埼玉県立文書館所蔵『大坂紀行』(文書番号 林家7527)を参照。

23 森永卓郎監修 甲賀忠一、制作部委員会編『物価の文化史事典 明治・大正・昭和・平成』展望社2008(請求記号D2-J74) p.398による。明治30年が8円、33年が10~13円。



写真9 「宮内之印」印(左)、「大蔵之印」印(右)
『日本古印史稿本』巻之三 <請求記号 本別9-11> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2546610> 21コマ目 館内限定公開)
本編5冊に272種(7種の印は追加されたもの)の印影と年代や典拠となった文献(先行する印譜や所蔵する文書など)の名称を載せる。本書は印刷したものを切り貼りしており、校正本と見られる。巻頭や元表紙は「日本印史」とある。序文は明治・大正期の法制学者、地理学者であった村岡良弼(1845-1917)による。附編として資料や校本など25冊があり、附24巻、附25巻には自身の印や「武蔵国青山村根岸氏製茶処」や「熊谷銀行」の印なども掲載している。なお、埼玉県立歴史と民俗の博物館に版木244種が残されている(註38参照)。

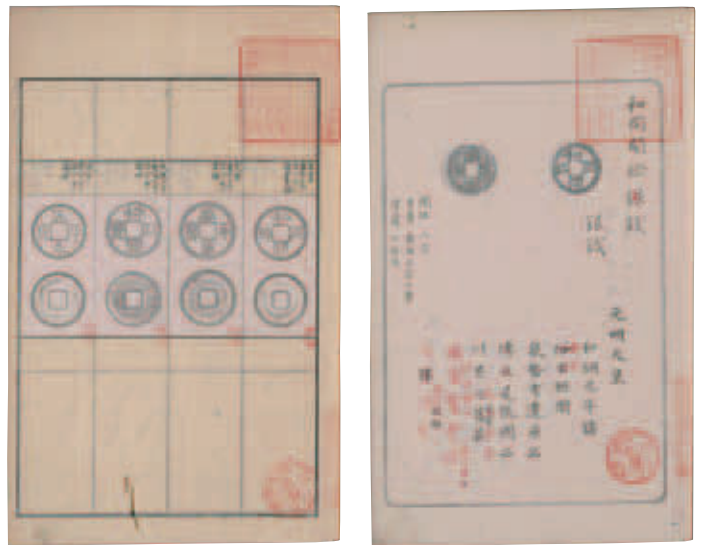


写真10 『榎園泉貨譜稿本』<請求記号 842-10>
左「榎園古代泉」巻頭 (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2563828> 3コマ目)、右「榎園貨譜」巻頭 (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2563829> 40コマ目 館内限定公開)
『榎園泉貨譜稿本』は、古代銭の乾拓や図と解説を記した「榎園古代泉」、「榎園泉貨譜稿」古代泉之部(以上第1冊)、「榎園泉貨譜」、「榎園貨譜」(以上第2冊)からなる。第2冊末にコレクターの人物メモが付されている。特に写真右の「榎園貨譜」は「日本古印史稿本」(写真9)と同じ配置で古銭を紹介したもので、「探古齋伝来」など伝来を記しており、なかには「京都鉄道線路工事之時所獲」といった情報もみられる。朱筆による訂正が多くみられる。

根岸武香の著作と出版活動

- 24 『考古界』1篇3号 考古学会 1901 pp.6-8 (請求記号 雑19-52)
- 25 岡田村雄との共著。「貨幣部類」 pp.1-6 (好古社編集部編『好古類纂』第7集 好古社出版部 1902) (請求記号 187-142イ)
- 26 『東京古泉会雑誌』23号 東京古泉会 1897 pp.4-5 <請求記号 842-15>
- 27 柴田常恵「雑筆六則 一根岸君の遺稿」(前掲註10 『東京人類学会雑誌』pp.377-379)によれば、『東京人類学会雑誌』に2本、『考古学会雑誌』に1本、『考古界』に6本『好古類纂』に1本の記事を掲載している。
- 28 前掲註10 『根岸友山・武香の軌跡』 pp.204-205
- 29 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2605986> 一部館内限定公開
- 30 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2607179> 一部館内限定公開
- 31 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2607494> 一部館内限定公開
- 32 明治17年刊(請求記号 105-30)。埼玉県立文書館などでも所蔵している(埼玉県立文書館文書番号 小室家2768~2847)。
- 33 近藤瓶城編『史料通信叢誌』史料通信協会 1893~1898(請求記号 210.08-Ko585s)など。
- 34 国立国会図書館百科編集委員会編『国立国会図書館百科』出版ニュース社 1989(請求記号 UL214-E6) p.326による。そのほか、内閣文庫に『親族譜』(国立公文書館請求番号 190-0529)、『荷田東万呂歌集』(国立公文書館請求番号 201-0765)もある。ただし、「青山文庫」印はなく、「根岸文庫」「根岸氏之蔵書不許散在」印などがある。東京大学史料編纂所には根岸旧蔵の写本で当館に所蔵のない『太田系譜』(請求記号 4175-67。東京大学史料編纂所のホームページ (<http://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/shipscontroller>))

著作もまた、「四方寺印の考」²⁴、「皇朝泉貨志」²⁵、「興福寺出土和同銭の種類」²⁶など、考古資料や古銭、古印に関するものが挙げられる²⁷。没後『日本古印譜』が出版されたとのことだが²⁸、所蔵者を詳かにしない。だが、当館に『日本古印史稿本』<請求記号 本別9-11>²⁹【写真9】や、『榎園泉史稿本』<請求記号 842-36>³⁰、『榎園泉貨譜稿本』<請求記号 842-10>³¹【写真10】などの稿本類が所蔵されている。

また、内務省地理局による『新編武蔵風土記稿』³²出版にあたり発売などの事務を担当し、各地の史料を活字化することを企図した『史料通信叢誌』³³の発行人になるなど、史料の公刊にも取り組んでいた。

根岸武香旧蔵書などの所在

当館が所蔵する根岸武香旧蔵の古典籍や古文書は胃山文庫(根岸文庫)と呼ばれ、およそ950件3500冊119帖42軸325枚から成る³⁴。昭和6(1931)年に帝国図書館に寄贈され、昭和10(1935)年に目録³⁵が刊行された。また、埼玉県立文書館に寄託された林家文書には根岸

の旅日記や日記、雑記帳、来簡集などが³⁶、同じく根岸家文書には根岸家に伝来した村方文書が伝わっている³⁷。なお、熊谷市に残されている根岸家の長屋門は市の指定文化財であり、「友山・武香ミュージアム」が設置されている³⁸。

青山文庫（根岸文庫）

青山文庫について、『国立国会図書館百科』には「①古文書田券類②武家文書③古写経④地誌・地図類⑤名家自筆本⑥古銭関係⑦印譜及び古印関係書⑧その他有職故実、茶道関係書・双六・絵暦」³⁹と紹介があるが、少し補足しておこう。

古文書（①、②）

平安時代の古文書や足利将軍の所領宛行状、豊臣秀吉朱印状や伊達政宗書状など300通を超え、当館所蔵の古代・中世文書の中核をなす⁴⁰。平安時代のものの一部は、明治23（1890）年に国学者黒川真頼⁴¹の解説を得て摸刻本を作成し⁴²、明治32（1899）年には、東京帝国博物館から「歴史ノ參攷トナルヘキモノ」との鑑査を受けている⁴³。これらとは別に、前田夏繁⁴⁴が所蔵していた東福寺の古文書を摸写した『骨董集』第16冊〈請求記号 本別9-13〉⁴⁵や武蔵国北部の中・近世文書を模写した『武蔵古文書』〈請求記号 842-127〉⁴⁶などもある。『日本古印史稿本』〈請求記号 本別9-11〉⁴⁷には、自身の所蔵する古文書に捺された印影を掲載する旨が記されたものも見られ、古印研究の史料としても用いられていたことが分かる。

地誌・地図（④）

関東地方の地誌が多く、『武蔵志料』〈請求記号 839-58〉⁴⁸、『武蔵国郡志』〈請求記号 839-65〉⁴⁹など十数点は、明治10年代に史誌編纂のために埼玉県に貸し出されたこともあった⁵⁰。とくに『北条家分限帳』〈請求記号 838-92〉⁵¹、『小田原記』〈請求記号 839-17〉⁵²、『鉢形家臣落人在所書抜帳』〈請求記号 842-40〉⁵³のように後北条氏にまつわるものが多い⁵⁴。地図は、司馬江漢の『地球全図』〈請求記号 本別9-9〉⁵⁵のようなものも含まれるが、江戸の古地図を主に収集し

で画像の閲覧が可能）があることや、黄表紙類を収集していたものの（大野雲外、柴田常恵「図版考説」（前掲註10『東京人類学会雑誌』pp.352-371）p352）、当館に所蔵されていない。

35 帝国図書館編・刊『帝国図書館所蔵青山文庫和漢図書目録』1935（請求記号 616-142）

36 埼玉県立文書館編・刊『林家文書目録』1986（請求記号 GB5-G22）pp.304-306, p.348 参照。

37 『武蔵国大里郡甲山村根岸家文書目録』埼玉県立図書館 1967（請求記号 2134-Sa2144n）、「根岸家文書追加目録」（埼玉県立図書館閲覧室備付）。なお、根岸武香による吉見百穴の保存活動に関する書類なども含まれている。

38 そのほか、埼玉県立歴史と民俗の博物館には、『新編武蔵風土記稿』の版本472種と日本の古代印の版本244種や根岸武香に関する刷物などが収蔵されている（埼玉県立博物館編・刊『埼玉県立博物館館有資料目録』6（昭和56年～昭和57年）1990（請求記号 UA31-E49）pp.60-80、同7（昭和58年～昭和59年）1991（当館未所蔵）pp.23-24）。同館佐藤美弥氏のご教示による。なお、埼玉県立歴史と民俗の博物館では、平成25年1月2日から2月11日まで「埼玉歴史街道Ⅰ『新編武蔵風土記稿』の世界」を開催し、上述の版本も展示される予定とのことである。

39 前掲註34『国立国会図書館百科』p.326

40 藤井貞文「根岸家旧蔵文書 平安朝篇」（国立国会図書館支部上野図書館編・刊『上野図書館紀要』（3）1957 pp.52-65）（請求記号 Z21-159）、国立国会図書館参考書誌部編『国立国会図書館所蔵貴重書解題』第4巻 国立国会図書館 1972（請求記号 UP72-2）に一部分の翻刻がある。卷子本などに仕立てられ、『田券』〈請求記号 WA25-40〉（<http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/1288411>）、『鎌倉殿下知状』〈請求記号 WA25-43〉（<http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/1288412>）といった書名で登録されている。

41 黒川真頼（1829-1906）幕末・明治期の国学者。国学者黒川春村に入門、養子となった。帝国大学教授などをつとめる。

42 『模刻根岸武香翁蔵古田券』（慶応義塾大学文学部古文書室所蔵）。前掲註40『田券』の模刻。慶応義塾大学文学部古文書室所蔵のホームページ（<http://kmj.flet.keio.ac.jp/material/NP03203/NP03203.html>）に画像が掲載されている。また、版木を埼玉県立歴史と民俗の博物館が所蔵することである。同館佐藤美弥氏のご示教による。

43 埼玉県立文書館所蔵「帝国図書館鑑査状」（写）（文書番号 林家7543-2）

44 前田夏繁（1841-1916）明治期の美術鑑定家、小説家。国学者前田夏蔭の子。号香雪。

45 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2586690> 館内限定公開

46 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2609303>

47 URLは、前掲註29参照。

48 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2607758>

49 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2538694>

50 埼玉県立文書館所蔵「諸書簡」（文書番号 林家7556）による。

51 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2538668>

52 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2607201>

53 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2538947>

54 先祖が後北条氏の支配下にあった松山城主上田氏に仕えたことによるものだろうか。松山城は吉見百穴の隣接地にあたる。

55 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2609675>

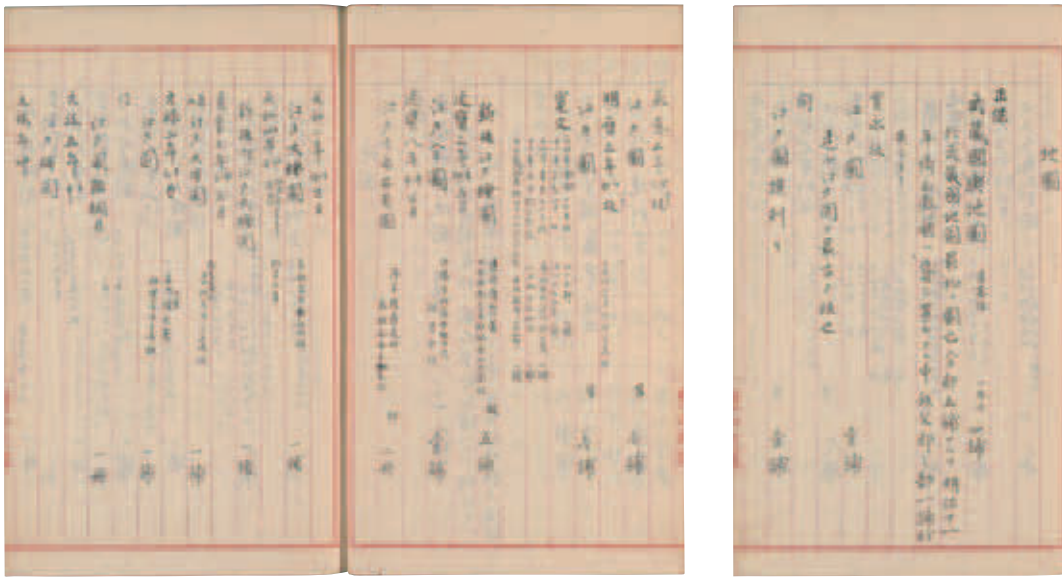


写真11 『権園泉史稿本』第2冊所収の地図の目録
 <請求記号 842-36> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2563850> 右13
 コマ目、左14コマ目 館内限定公開)
 根岸武香の所蔵資料目録とみられ、
 明治維新後刊行のものも含め47点の
 地図や関係書を著録する。
 埼玉県立文書館には同様の目録『江戸
 地図(目録)』(文書番号 林家7552)
 がある。

ていたようで50種近く所蔵する【写真11】。明治33(1900)年11月の集古会(後述)では、コレクター仲間に披露されてもいる。

名家自筆本(⑤)など

- 56 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541792>
 57 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2609920>
 58 加藤千蔭(1735-1808)江戸後期の国学者、歌人。加藤枝直の子。号芳宜園など。賀茂真淵門。町奉行与力をつとめ、引退後「万葉集略解」などを著す。歌人として優れ、村田春海と並び称せられた。
 59 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541783>
 60 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541786>
 61 狩谷掖斎(1775-1835)江戸後期の国学者、漢学者、考証学者。諱望之。号求古楼など。該博で実証的な学風であり、「本朝度量權衡考」「古京遺文」「日本靈異記攷証」などを著した。
 62 栗原信充(1794-1870)江戸後期の故実家。号柳庵など。屋代弘賢門。屋代弘賢が中心となって編纂した「古今要覧」(百科事典に類する書)の編纂に従事した。
 63 村田春海(1746-1811)江戸中後期の国学者、歌人。号織錦齋など。賀茂真淵門。歌人として著名であり、加藤千蔭と並び称せられた。
 64 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2608154>
 65 賀茂真淵、本居宣長、加藤千蔭、村田春海、狩谷掖斎、佐久間象山などの書簡を含む。翻刻は国立国会図書館参考書誌部編『国立国会図書館所蔵貴重書解題』第10巻 国立国会図書館 1980(請求記号 UP72-2)参照。
 66 長谷川延年(1803-1887)幕末・明治期の篆刻家。号博愛堂など。三条家に仕えた。
 67 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2605787>
 68 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2609612>
 69 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/800830> 館内限定公開 白黒画像
 70 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/800839> 白黒画像
 71 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1286720>
 72 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2610815>

『枝直千蔭詠草』<請求記号 本別9-18>⁵⁶や『知理比治』<請求記号 本別9-10>⁵⁷など加藤千蔭⁵⁸の自筆や手沢と考えられる資料、『本朝度考八咫鏡説平田氏批攷弁』<請求記号 本別9-1>⁵⁹、『古金待問録』<請求記号 本別9-4>⁶⁰など狩谷掖斎⁶¹の自筆や手沢と考えられる資料が比較的多くみられる。狩谷掖斎の関連資料は度量衡関係のものが多い。そのほか、栗原信充⁶²、村田春海⁶³の関連資料や名家の書状を集めた『諸名家手簡』<請求記号 WA25-11>^{64,65}などもある。

古銭・古印関係資料(⑥、⑦)

古銭関係が約80種、古印関係が約20種ある。著者長谷川延年⁶⁶手沢の『博愛堂集古印譜』<請求記号 本別9-12>⁶⁷をはじめ古印譜や古銭譜類が多いが、『銀座御用留』<請求記号 842-26>⁶⁸といった記録、『東京古泉会雑誌』<請求記号 842-15>⁶⁹、『横浜銭貨研究会』<請求記号 842-14>⁷⁰など古銭愛好の会の会誌類なども含まれている。ちなみに、『絵暦』第1冊<請求記号 貴9-4>⁷¹には天保通宝の実物が1枚貼り込まれている。また、藩札を張り込んだ『藩札』<請求記号 貴9-22>⁷²もある。

度量衡関係

前述の狩谷椽斎『本朝度考八咫鏡説平田氏批攷弁』〈請求記号 本別9-1〉⁷³、狩谷椽斎が書写した荷田在満『本朝度制略考』〈請求記号 本別9-2〉⁷⁴、岡本況斎⁷⁵の存疑を加えた『本朝度量権衡考』〈請求記号 841-171〉⁷⁶など江戸後期の国学者・考証学者による度量衡関係の資料が少なくない。度量衡関係の資料はおよそ20点含まれている。根岸は升も収集し、『日本古印史稿本』〈請求記号 本別9-11〉⁷⁷や『根岸武香覚書』⁷⁸には升に押された印の乾拓による図も収載されている。根岸の関心は度量衡にも向けられていた。

考古資料の図録

18世紀後半から明治にかけて文献考証や好古の風潮が広まるなかで、古器物・古典籍などの図を掲載した資料が多数出版された⁷⁹。こうした図録を多数所蔵していることも指摘しておきたい【写真12】。古物を摸刻した刷物もみられる【写真13】。その死により果たされなかったが、根岸自身も集古会（後述）の事業として、考古図録の出版を企図していた⁸⁰。

考古資料の図を掲載した写本も少なくない。明治34（1901）年1月1日に山中笑⁸¹が所蔵していた『鏃鋒図景』の写し〈請求記号

73 URLは、前掲註59参照。

74 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541784>

75 岡本況斎（1797-1878）幕末明治初期の国学者。通称縫殿助。清水浜臣、狩谷椽斎門。音韻学などに通じていた。

76 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2538898>

77 URLは、前掲註29参照。

78 埼玉県立文書館所蔵『根岸武香覚書』（文書番号 林家7519）

79 「江戸時代に於ける考古図録の編刊」（川瀬一馬著『日本書誌学之研究』講談社 1943 pp. 1767-1775）（請求記号 020.11-Ka932n2）は40種の資料を紹介しているが、青山文庫では、およそ半数を所蔵し、未紹介資料も15種所蔵する。

80 山中笑「故根岸武香君の辞世に就て」（前掲註10『東京人類学会雑誌』 pp.374-376）p.374

81 山中笑（1850-1928）明治・大正期の牧師・民俗学者。号共古。静岡・山梨などで伝道活動を行なった。民俗学の先駆者とされる。

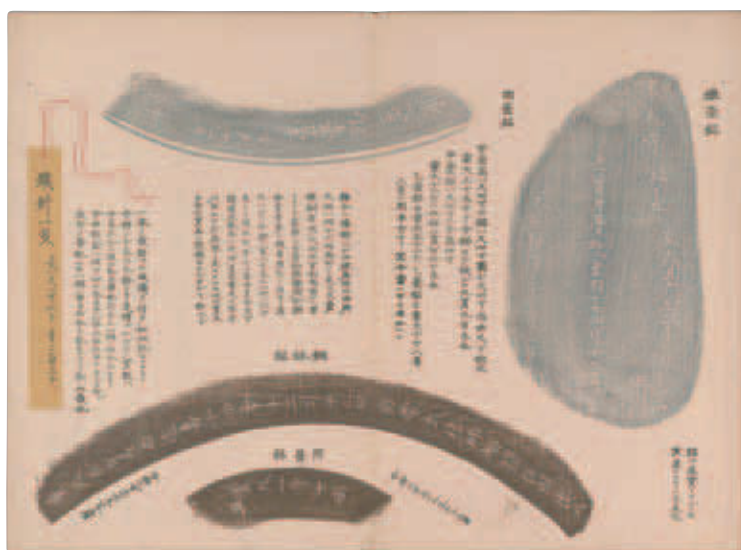


写真12 考古資料の図録
穂井田忠友『観古雑帖』〈請求記号 841-66〉（<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2538816> 8コマ目）。師である横山由清編の『尚古図録』〈請求記号 841-81〉（<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849554> 館内限定公開 白黒画像）も所蔵していた。



写真13 火災水難祓除河神霊面真図（文政12（1829）年）
『張交帖』第12冊 〈請求記号 本別9-24〉（<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586703> 26コマ目）。江戸後期の考証家小山田与清による刷物。好古の刷物については、拙稿「東洋文庫所蔵『摸刻鑑』について」（『東洋文庫書報』（34）東洋文庫 2002 pp.35-76）（請求記号 Z21-274）参照。

82 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2538782>
館内限定公開

83 沼田頼輔（1867-1934）明治～昭和期の歴史学者。紋章学、考古学に通ずる。岡山県師範学校教諭、山内家の家史編纂主任などをつとめる。『日本紋章学』により帝国学士院恩賜賞受賞。

84 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2538786>
館内限定公開

85 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2610716>

86 明治39年の好古社の特別会員証など、一部、根岸武香没後に張り込まれたものが含まれているため、編者は未詳だが、根岸武香関係と確認できるものが多いので、主として根岸の所蔵品とみられる。

87 福羽美静（1831-1907）幕末・明治期の国学者。津和野出身。大國隆正・平田鏡胤門。維新後は元老院議員や貴族院議員などをつとめた。

88 加部巖夫（1849-1922）明治期の国学者。神祇官、宮内省、文部省などに仕出。国歌「君が代」の制定にも従事した。

89 小杉榎邨（1834-1911）幕末・明治期の国学者。号杉園。「古事類苑」編纂に従事。教部省、帝国博物館、東京帝室博物館などに勤務。

90 谷森善臣（1817-1911）幕末・明治期の国学者。幕末、山陵調査に従事し、維新後は修史館などにつとめた。

91 田中教忠（1838-1934）京都の呉服商。典籍・古文書の収集家、研究者。

92 井上頼圀（1839-1914）幕末・明治期の国学者。平田鏡胤門。私塾神習舎を開く。「古事類苑」編纂に従事した。

93 木村正辞（1827-1913）幕末・明治期の国学者。号楓齋。伊能頼則・岡本況斎門。民法編纂などに関与。帝国大学教授、高等師範学校教授などをつとめる。「万葉集」研究で有名。

94 『好古叢誌』好古社 1896（請求記号 6-184）5編上巻48丁裏～50丁裏、5編下巻33丁表～34丁表による。

95 『骨董集』第6冊 <請求記号 本別9-13> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586680> 62コマ目 館内限定公開)による。

841-10>⁸²を、同年2月15日には沼田頼輔⁸³が所蔵していた『矢鏃銘鑑』の写し<請求記号 841-16>⁸⁴を作成している

このほか、錦絵、双六、絵暦、書の手本なども集めている一方、「伊勢物語」や「源氏物語」は所蔵せず、「六国史」も揃っていない。当館の青山文庫は、コレクターの収集品として集められたと思われる資料と、研究資料として集めたと思われる資料が混在するが、国学者のなかでも好古家というに相応しい蔵書といえよう。

好古の活動と交友 『張交帖』を手がかりに

好古家としての活動は、交友関係のなかで広がりを見せていた。ここでは『張交帖』<請求記号 本別9-24>⁸⁵というスクラップブックを手がかりに、根岸武香の好古をめぐる交友関係をみてみよう⁸⁶。

国学者との交流

福羽美静⁸⁷の配り物【写真14】や、福羽と加部巖夫⁸⁸が共作した刷物などがみえる。また、小杉榎邨⁸⁹の手書きの名刺や小杉の筆跡の刷物は珍しい【写真15】。谷森善臣⁹⁰の弟子で京都の古典籍コレクターである田中教忠⁹¹の名刺もある。

彼らと根岸に共通するのは好古社員であることである【写真16】。好古社は明治14（1881）年福羽が結成した「古学上ニ就テ最有用ト認ムル事項ヲ互ニ報道」（好古社規則）する学術的な結社である。小中村清矩、黒川真頼、井上頼圀⁹²、木村正辞⁹³などの国学の大家も参加し、年2回古器物・古典籍などを展覧しあう「好古会」を開いていた。根岸も、明治28（1895）年11月24日の好古会席上「豊太閤御茶席之次第古文書」を、明治29（1896）年5月3日には「御笠郡古銅印」、「次田郡古銅印」⁹⁴、北足立郡川田谷村から出土した「埴輪馬首」などを展覧に供する一方⁹⁵、同年11月15日には根岸も展覧した戈や八重洲から出土した壺などを摸写している【写真17, 18】。

人類学者・考古学者との交流

坪井正五郎とは、吉見百穴発掘以降も交流が深かった。根岸は、坪井の勤務する帝国大学から埼玉地方の調査の委嘱を受け、その関係か



写真14 福羽美静による正月の刷物
『張交帖』第1冊 <請求記号 本別9-24> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586692> 37コマ目)。このほか、日清戦争勝利を祝う色紙(38コマ目)や、「古典歌」なる刷物(39コマ目)、明治21年に加部巖夫とともに武蔵野を巡歴した際の刷物(36コマ目)などが貼り込まれている。

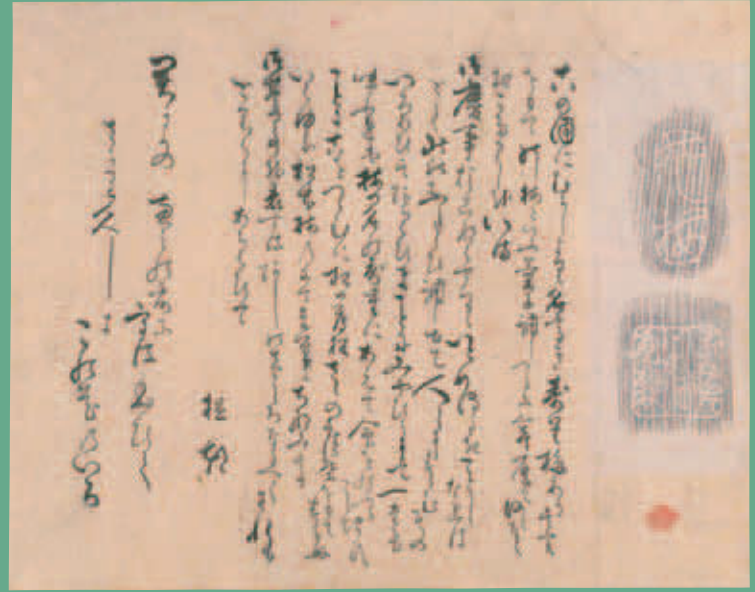


写真15 小杉樞郎によるすり梅の刷物
『張交帖』第1冊 <請求記号 本別9-24> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586692> 3コマ目)に貼付されていたもの。小杉は書家としても高名であった。



写真16 好古社の「社員之証」(左上)と領収証(右下、左下)
『張交帖』第4冊 <請求記号 本別9-24> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586695> 20コマ目)。第9冊には引札なども貼り込まれている。



写真17



写真18

写真17 明治29年11月15日に開催した好古会の出品資料の図
写真18 『骨董集』第6冊 <請求記号 本別9-13> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586680> 写真17は73コマ目、写真18は74コマ目 館内限定公開)。写真17には「渡辺玄包出品 明治廿八年八月八重洲町三菱会社建築之時地下七尺之处より出現ス」とあり、写真18には「船崎新太郎氏出品 戈」とある。

96 <http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/2586695>
17コマ目

97 前掲註10『東京人類学会雑誌』

98 三宅米吉 (1860-1929) 明治・大正期の歴史学者・考古学者。東京高等師範学校校長、東京文科大学長、帝室博物館総長などを歴任。考古学会を組織した。考古学初期の功労者とされる。

99 「会告 (其三)」(『考古界』1篇1号 考古学会 1901 pp.3-4) (請求記号 雑19-52)

100 集古会は後に江戸通中心の会となるが、この時期は考古学者なども参加していた。山口昌男 著『内田魯庵山脈 〈失われた日本人〉 発掘』上巻 岩波書店 2010 (請求記号 KG626-J14) p.63参照。

101 本節の集古会での活動に関する記事は、特記ない場合は『集古会記事』各号による。

102 明治32年までは少額の寄付であった。また、明治33年の寄付者は4人のみで、根岸に次ぐ寄付金額は2円50銭、明治34年の寄付者は根岸のみである。

103 『鎌倉懐古展覧会目録』<請求記号 842-111> (<http://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/849452> 37コマ目 白黒画像) には、明治24年7月22日に鎌倉に行き、翌日、鎌倉懐古展覧会を見物した旨を記す識語がある。

人類学教室の出門証が『張交帖』第4冊 <請求記号 本別9-24>⁹⁶に貼り込まれている。東京人類学会の評議員をつとめ、『東京人類学会雑誌』15号 (1887) には坪井による情報提供の呼びかけに応じて「歳神へ奉る種々の物」を投稿している。同誌根岸武香氏記念号⁹⁷では坪井が巻頭に一文を寄せている。

根岸は考古学会でも評議員を勤め、明治34 (1901) 年3月25日には自ら寄附金集金を主唱し、この後、同学会の初代会長となる高等師範学校教授の三宅米吉⁹⁸と並ぶ最高額5円を寄付している⁹⁹。

集古会への参加

「談笑娯楽の間に考古に関する器物及書画等を蒐集展覽し互に其の智識を交換する」という趣味的な雰囲気を持った集古会にも参加していた¹⁰⁰。2ヶ月に1回、出題されたテーマに即して品物を持ち寄るこの会で、根岸も地図60舗3冊と升23個 (明治33年 (1900) 11月10日)、双六171舗1冊ほか (明治35 (1902) 年1月11日) を出品するなどしている¹⁰¹。地元胃山で得た八稜鏡、猿猴附鈴 (ともに明治34 (1901) 年1月12日) などを東京で披露することもしばしばであった。

会計状況の厳しい明治32 (1899) 年7月には会長を引き受け、湯島にあった東京の居宅を事務所として提供し、明治33、34年に各50円を寄付し、パトロン役も果たしている¹⁰²。明治33年、鎌倉時代の料理を実際に作らせ、食器や接待の様子まで当時を再現する「料理会」を開催したのも根岸の発案による【写真19】。余談だが、根岸武香はグルメだったのかもしれない。『張交帖』には駄弁の掛け紙や菓子の引き札やラベルなどが少なくない【写真20】。それはともあれ、集古会宛の年賀状なども残されている【写真21】。

そのほか、自ら主催して天神会を開いて仲間を集めたり、鎌倉懐古展覧会¹⁰³や豊太閤三百年大祭 (関西) など遠出をし、同好の士と会ったりもしていたようだ【写真22】。筋金入りの好古家であった。

おわりに

根岸武香は、膨大な古器物のコレクションをもとに地元と東京を繋ぎ、国学者から人類学者・考古学者、趣味人に至るまで幅広い交流を

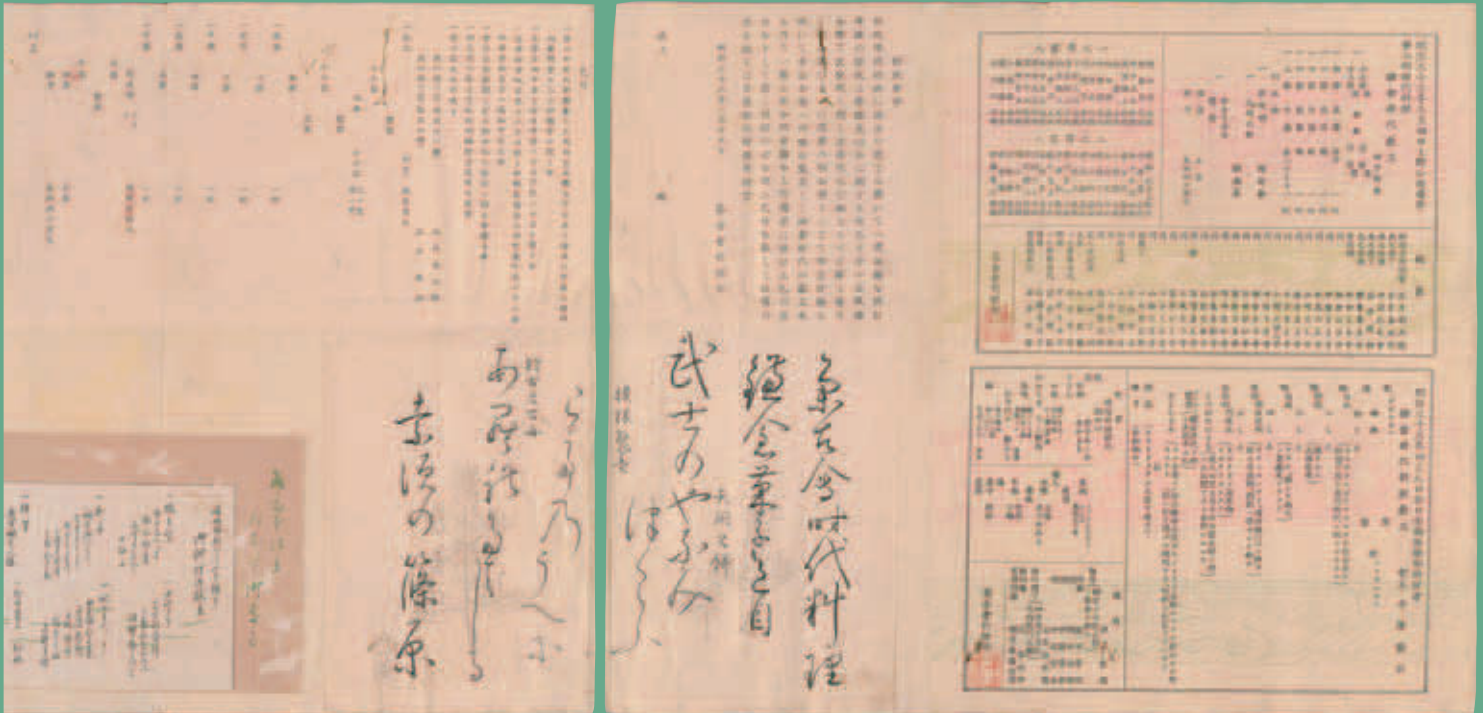
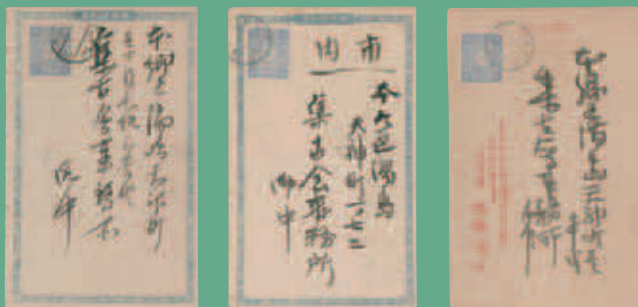


写真20

上 写真19 集古会における「鎌倉時代料理」の案内や献立
 『張交帖』第1冊 <請求記号 本別9-24> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586692> 右11コマ目、左12コマ目)。明治33年3月、4月のもの。4月のメニューには鎌倉の海老、鶴、蛇、鴨、佐々木盛綱の源頼朝への献上品に倣った鮭の楚割(乾物の一種)、鎌倉の鮑などが挙がっている。

左 写真20 大船軒のサンドイッチ掛け紙(中央)など
 大船軒は明治32年に日本最初のサンドイッチの駅弁を売りだしたとされる。この掛け紙はごく初期のものと考えられる。大船軒のサンドイッチの掛け紙は、東北歴史博物館編・刊『観光旅行 大正～昭和初期のツーリズム』2002(請求記号 GD15-G14)、天理大学附属天理参考館編『憧れの食堂車と全国駅弁めぐり メニューやラベルあれこれ 第53回企画展図録』天理大学出版部 2005(請求記号 Y93-H2505)、上杉剛嗣著『駅弁掛け紙ものがたり 古今東西日本を味わう旅』けやき出版 2009(請求記号 DL698-J32)、北区飛鳥山博物館編『ノスタルジア・駅弁掛け紙コレクション』描かれた名所・名物・名産展図録 東京都北区教育委員会 2011(請求記号 DL698-J85)などに掲載されているが、昭和期のものなどである。左は朝鮮飴の掛紙、右は風月堂のラベル。いずれも『張交帖』第1冊 <請求記号 本別9-24> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586692> 左9コマ目、中央23コマ目、右3コマ目)に貼付されている。



上 写真21 葉書類
 『張交帖』第5冊 <請求記号 本別9-24> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586696> 左36コマ目、中央39コマ目、右40コマ目)に貼付されているもの。集古会宛(住所は根岸武香の東京の居宅)の葉書類。

右 写真22 『豊太閤三百年大祭』(明治31年)における各寺社の拝観章など
 『張交帖』第2冊 <請求記号 本別9-24> (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586693> 11コマ目)。行程は埼玉県立文書館所蔵『伊勢参宮日記』(文書番号 林家7534)に詳しい。



104 山中笑「故根岸武香君の辞世に就て」(前掲註10『東京人類学会雑誌』pp.374-376) p.375

105 鈴木廣之著『好古家たちの19世紀 幕末明治における《物》のアルケオロジー』吉川弘文館 2003(請求記号 K81-H20)、中澤伸弘、宮崎和廣編・解説『好古研究資料集成』(全9巻)クレス出版 2011(請求記号 GB33-J3~GB33-J11)、藤田大誠著『近代国学の研究』弘文堂 2007(請求記号 HA17-J1)など。近代の国学と人文科学との関係については、國學院大學研究開発推進機構伝統文化リサーチセンター編・刊『モノと心に学ぶ伝統の知恵と実践 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業オープン・リサーチ・センター整備事業成果論集』2012(請求記号 HL41-J27)や齋藤希史編『近代日本の国学と漢学 東京大学古典講習科をめぐって』東京大学グローバルCOE「共生のための国際哲学教育研究センター」2012(請求記号 HA17-J16)、拙稿「旧版『国史大系』の編纂とその底本 小中村清矩旧蔵『日本書紀』を中心に」(日本近代史研究会編・刊『近代史料研究』(11)2011 pp.24-44)(請求記号 Z71-F912)など参照。

106 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586677>
館内限定公開

107 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2609301>

持った。常設展示場と学術的集会の会場を持つ「考古倶楽部」を建築する計画も持っていたとされる¹⁰⁴。近代的学問が導入される時代にあつて、さまざまな好古の人々の架け橋になっていたといえよう。当館の青山文庫には、その一端が残されている。

近年、江戸後期から明治期にかけての好古に関する研究や近代の国学、特に国学と人文科学との関連性を問う研究が盛んになっている¹⁰⁵。そうした側面からも、青山文庫と根岸武香は再検討されてしるべきであろう。

短い紹介であり好古の活動にしぼって資料を紹介したため、触れられなかった資料も少なくない。たとえば、幕末維新期の動乱にまきこまれた際の記録類「青山防戦記」(『骨董集』第3冊)〈請求記号 本別9-13〉¹⁰⁶や『根岸家諸記録』〈請求記号 841-204〉¹⁰⁷、父根岸友山の建白や歌集、神道関係の論説、皇居造営のために木材を献上した際の記録や、『新編武蔵風土記稿』出版に関するメモなどである。また、博物館の展覧券や鉄道の切符【写真23】、切手や各地の消印【写真24】、食事や宿の領収書などもある。強烈な収集癖といえはそれまでだが、根岸武香は、微細な資料が後世、「好古」の材料となると見通していたのではないかとすら思えてくる。

最後に、「はじめに」で記したとおり、今回の紹介にあたっては、「国立国会図書館デジタル化資料」を用いて効率的な調査が可能となった。

だが、現在インターネット公開されている古典籍資料は当館に所蔵するものの四分の一にすぎず、著名なコレクションであっても、新城文庫(天文学・暦学)、亀田文庫(国語学)、鶯軒文庫(日本漢詩文)など未電子化資料も少なくない。これらの電子化は今後の課題となっている。

(おおぬま よしき

利用者サービス部人文課)

*本稿の執筆にあたり、根岸家第17代御当主の根岸友憲氏、埼玉県立文書館の兼子順氏、埼玉県立歴史と民俗の博物館の佐藤美弥氏に有益なご教示をいただきました。記して感謝致します。



左 写真23 東京帝室博物館優待券と鉄道の切符類
『張交帖』第5冊 〈請求記号 本別9-24〉
(<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586696> 23コマ目)



右 写真24 「武蔵」国内の切手の消印
『骨董集』第3冊 〈請求記号 本別9-13〉 (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2586682> 17コマ目)。地域別に消印の捺された切手を集めたもの。本書表表紙には「各地消印蒐集」と、裏表紙には「吉田基一郎 持主」と記されている。他の収集家が収集した資料を根岸武香が入手したものであろう。

本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。ここでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

岩手キャベツ物語

玉菜、「南部甘藍」から「いわて春みどり」まで
清水克志 編著 キャベツの歴史と復興録出版実行委員会 刊
2010.12 359頁 30cm <請求記号 DM225-J32>

「いわて春みどり」というキャベツのブランドをご存知だろうか。名称からすると、春に売り出されるものだと思われるかもしれないが、これは主に6月から10月にかけて出荷される。キャベツの品種は春系や夏秋系・寒玉系などに分けられる。春系は、主に春に出回る柔らかく緑色が鮮やかな品種だ。夏秋系は夏秋、寒玉系は秋冬に栽培される、白っぽくひきしまった品種だ。岩手県では、他産地との差別化のため、春系キャベツをあえて夏期に栽培し「いわて春みどり」として売り出して、人気を得ている。栽培が難しく手間はかかるが、2010年には5年連続で販売額10億円超えを達成した。

本書は、かつて日本最大のキャベツ産地だった岩手県が、一度は衰退しながらも再び産地として復興を果たすまでの百年にわたる軌跡を記述した「復興録」だ。

本書は7つの章で構成されている。第1～3章ではキャベツが明治期の日本に導入された後、「南部甘藍」という、固く日持ちのする品種を生んだ岩手県が、日本中にキャベツを供給する大産地となるまでがまとめられている。そのような状況から一転、第4～5章では戦後、消費者の嗜好の変化や他産地の台頭により、南部甘藍が世間から見放され、農家が他の作物への転換を模索していく様子が描かれている。第6～7章では、試行錯誤を経て、消費者のニーズに合った柔らかなキャベツの生産地として復興する過程や現状、今後の展望について語られる。

本書の特徴は、歴史地理学者である著者による史料に基づいた分析の合間に、大小様々の座談会の記録が配置されていることだ。農家だけでなく、キャベツの生産・流通に携わる様々な関係者が会し



て、ざっくばらんに思い出を語っている。客観的記述と人々の生の言葉が相まって、当時の雰囲気が立体的に浮かび上がってくる。中でも転換期において、南部甘藍という強力な換金作物を失った農家を採算度外視で支えた青果会社「岩印」とそれに追随した岩手県経済連の懸命な取り組みや、競合・敵対関係にあった両者が合併に至るドラマが印象的だ。全体を通して、岩手のキャベツに関わる人々が、戦略を立て、ときに感情に折り合いをつけながら、重要な選択を繰り返してきたということに気付かされる。

「これからの世代が迷った時に進むべき方向を示唆するような、歴史を繋ぐ一冊を」との願いから、本書は編まれた。最盛期を迎え一度衰退した産地が、同じ作物の産地として再び復興するのは極めて稀なことだという。そのような数少ない事例の一つがどのような選択の積み重ねの結果にあるものなのかが、緻密かつ生き活きと一冊の書物にまとめられたことには、一地域の産地史にとどまらない意義を感じる。(調査及び立法考査局国会レファレンス課

おくま あき
小熊 有希)

※1部2,500円(税込・配送手数料別)。詳細はJ A新いわて東部営農経済センター 米穀園芸課へ。電話 0195 (61) 2511

**平成24年度
書誌調整連絡会議**

10月12日、東京本館で平成24年度書誌調整連絡会議を開催した。今年度は、収集書誌部で検討中である書誌データの作成・提供に関する新しい方針や、これからの書誌データのあり方等について、研究者や図書館、書誌作成機関等と意見交換を行った。書誌データを開放していく新方針の方向性に関しては、参加者からおおむね賛同を得られた。また、新方針に基づいた具体的な作業の進め方を早期に公開してほしいとの要望が寄せられた。

会議の概要を、国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 「図書館員の方へ」 > 「書誌データの作成および提供」 > 「書誌調整連絡会議」 (<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/conference.html>) のページに掲載するとともに、書誌データの作成・提供に関する新しい方針を今年度中に策定し、国立国会図書館ホームページに掲載する予定である。





お知らせ

■ 年末年始の ご利用について

○年末年始の休館（東京本館・関西館・国際子ども図書館）

次の期間、休館いたします。

平成24年12月28日（金）～平成25年1月4日（金）

○NDL-OPAC

NDL-OPACからの資料検索、遠隔複写申込みは年末年始の休館期間中も可能です。

この間に申し込まれた複写製品の発送は、1月5日以降になります。

○来館申込みによる後日郵送複写

来館申込みによる後日郵送複写について、複写製品の年内発送をご希望の場合は、下表に示した日までにお申し込みください。ただし、分量が多い場合や複写方法によっては、発送が1月5日以降になることがあります。お急ぎの場合は下表日程に関わらず、できるだけお早目にお申し込みください。

複写の種類	東京本館	関西館	国際子ども図書館
電子式複写	12/22（土）	12/22（土）	12/21（金）
マイクロフィッシュからの引伸印画	12/22（土）	12/22（土）	12/21（金）
マイクロフィルムからの引伸印画	12/22（土）	12/22（土）	12/21（金） ※カラー複写は 12/18（火）まで
フィルムからフィルムへのプリント	12/22（土）	12/20（木）	12/18（火）
フィッシュからフィッシュへのプリント	12/22（土）	12/20（木）	12/18（火）
撮影によるネガフィルムの作製	12/22（土）	12/20（木）	12/18（火）
撮影からの引伸印画	12/18（火）	12/17（月）	12/13（木）
撮影からのポジフィルム作製	12/18（火）	12/17（月）	12/13（木）



お知らせ

■ 講演会

「HathiTrustの挑戦

ー デジタル化資料の

共有における

『いま』と『これから』」

※本講演会は、当初、8月1日に予定していましたが、諸般の事情により延期となったものです。
この度、新しい日程が決まりましたので、改めてお知らせいたします。

HathiTrust 事務局長であり、ミシガン大学図書館の副館長でもあるジョン・ウィルキン氏による講演会を行います。

HathiTrustは、2008年、米国の13の大学図書館等が共同で始めたデジタル化資料のリポジトリです。2012年9月現在、60以上の機関が参加し、約1,050万点(図書資料約553万タイトル、雑誌約27万タイトル)の資料が登録されています。

ジョン・ウィルキン氏に、HathiTrustの取り組みの現状と将来戦略等についてお話いただき、デジタル化された知的資源を集約するための、今後の日本における図書館連携のあり方を考えます。

講演に引き続き、大向一輝氏(国立情報学研究所コンテンツ科学研究系准教授)、竹内比呂也氏(千葉大学文学部教授、同大学附属図書館長)ほかを交えてのディスカッションを予定しています。日英同時通訳付、入場は無料です。ぜひご参加ください。

○日 時 12月18日(火) 14:00～17:00

○会 場 東京本館 新館講堂(定員約300名)

○お申込方法

12月17日(月) 17:00までに、次のいずれかの方法でお申し込みください。
定員に達した時点で受付を終了いたします。

[ホームページ]

参加申込みフォームからお申し込みください。

URL <http://www.ndl.go.jp/event/20121218lecture.html>

国立国会図書館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > イベント・展示会情報
[ファクシミリ]

次の事項を明記の上、下記FAX番号あてお申し込みください。

①講演会名(「ジョン・ウィルキン氏講演会」、②氏名(ふりがな) ③連絡先(FAX番号もしくはE-mailアドレス)、④その他(登壇者への質問等ありましたら簡潔にご記入ください。第二部のディスカッションの参考にさせていただきます。)

○お申込み・お問い合わせ先

国立国会図書館 総務部 支部図書館・協力課 協力係

FAX 03(3508)2934 電話 03(3581)2331(代表)

お知らせ

■ 国際子ども図書館展示会 「セント・ニコラス：世界の 子どもたちが集った雑誌」



Vol.53, no.2 (1925.12) 表紙
<請求記号 Z57-A5>

国際子ども図書館は、12月4日（火）から、展示会「セント・ニコラス：世界の子どもたちが集った雑誌」を開催します。この展示会では、アメリカで最も優れた児童雑誌と言われた「セント・ニコラス」を、当館所蔵資料から約30点選んでご紹介します。

「セント・ニコラス (St. Nicholas : an illustrated magazine for girls and boys)」は、1873年創刊のアメリカの児童雑誌です。編集者、児童文学作家として著名であったメアリー・メイプス・ドッジ (Mary Mapes Dodge, 1831-1905) が初代編集長を務め、70年にわたり刊行されました。誌名には、子どもとニューヨークの守護神であり、サンタクロースの愛称で親しまれるセント・ニコラスのように、約束どおりに現れて子どもに笑顔を届ける雑誌にしたいという思いが込められています。

著名な作家による連載小説、科学・社会に関するノンフィクション記事、クイズや投稿欄など、多彩な記事が掲載されていました。日本についての記事も多く、日本からの投稿も寄せられていました。世界中の子ども読者たちが集った「セント・ニコラス」の魅力をお楽しみください。皆様のご来場をお待ちしています。

- 開催期間 平成24年12月4日（火）～平成25年2月3日（日）
※月曜日、国民の祝日・休日、年末年始（12月28日～1月4日）、
12月19日（水）、1月16日（水）を除く。
- 開催時間 9:30～17:00
- 会場 国際子ども図書館ホール（3階）
- 入場 無料

○お問い合わせ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 企画協力課
電話 03 (3827) 2053 (代表)

お知らせ

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物



レファレンス 741号 A4 73頁 月刊 1,050円 発売 日本図書館協会

- ・国民の議会への関与
- ・竹島をめぐる日韓領土問題の近年の経緯
- ・水産業の復旧・復興の現状と各種政策



平成23年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「児童文学とことば」

A4 116頁 年刊 1,680円 発売 日本図書館協会 (ISBN 978-4-87582-739-9)

- ・児童文学のことば、児童文学というコミュニケーション
- ・絵本のことば—文字のタイポグラフィをめぐって—
- ・現代の古典の翻訳—文体と言葉
- ・翻訳絵本のことば
- ・民話とことば
- ・参考資料紹介—児童文学と「ことば」：図書館から考えるためのブックリスト

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

CONTENTS

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
Movies recorded on paper : novelization of the Taishō era film serials
- 04 Libraries now in the areas stricken by the Great East Japan Earthquake (2)
- 05 One step at a time: a report about salvaging materials damaged in the Great East Japan Earthquake
- 11 About support for recovery of local documents held by Rikuzentakata City Library damaged by the Great East Japan Earthquake
- 15 Exhibition “Japan and the West -Intersection of Images”
- 26 Collection of a noted antiquarian: Negishi Takeka and the Kabutoyama bunko
 — the collection has now been added to the NDL Digitized Contents
- 25 <Tidbits of information on NDL>
 Better service to the Diet through collaborating with experts outside the NDL
- 39 <Books not commercially available>
 ○ *Iwate kyabetsu monogatari : Tamana, Nanbu Kanran kara Iwate Harumidori made*
- 40 <NDL News>
 ○ Conference on bibliographic control FY2012
- 41 <Announcements>
 ○ Library services at the year-end and New Year
 ○ Lecture “HathiTrust: Strategies and challenges in consolidating the digitized published record”
 ○ Exhibition at the International Library of Children’s Literature “St. Nicholas - the juvenile magazine that gathered together the children of the world”
 ○ Book notice - Publications from NDL

国立国会図書館月報

平成24年11月号 (No.620)

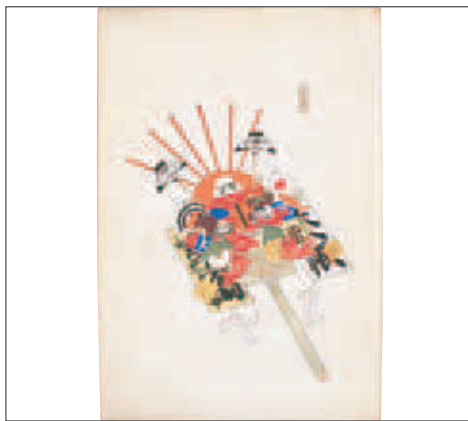
発行所 国立国会図書館
 編集責任者 田中久徳
 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
 電話 03 (3581) 2331 (代表)
 F A X 03 (3597) 5617
 E-mail geppo@ndl.go.jp

平成24年11月20日発行 定価525円
 (本体500円)

発売 社団法人日本図書館協会
 〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14
 電話 03 (3523) 0812 (販売)
 F A X 03 (3523) 0842
 E-mail hanbai@jla.or.jp

印刷所 株式会社正文社印刷所

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) >刊行物>国立国会図書館月報でご覧いただけます。



第五十一圖 西ノ市ノ熊手
『巨泉おもちゃ繪集』 第十一集
川崎巨泉著 大阪 おもちゃ繪版畫会
大正7(1918)年 1冊 37cm.
<請求記号 422-29>
「国立国会図書館デジタル化資料」でご覧になれます
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/967509/5>(モノクロ画像)

国立国会図書館月報

平成24年11月20日発行 (毎月1回20日発行)
(11月号通巻620号)

発売：社団法人 日本図書館協会 定価 525円 (本体 500円)